



秋田県由利本荘市
〒015-8501
由利本荘市尾崎17番地

由利本荘市 観光振興計画

平成27年3月 由利本荘市



由利本荘市の観光情報は
スマートフォンから左記の
QRコードを読み取って
ご覧ください。

はじめに



由利本荘市長
長谷部 誠

広大な市域を有する由利本荘市は、南に日本百名山に数えられる秀峰「鳥海山」を望み、これを源とする一級河川「子吉川」が実り豊かな田園を潤し、そして「日本海」にそそいでいます。この「山・川・海」の風光明媚で豊かな自然は、本市のかけがえのない観光資源であります。

地域のシンボルである「鳥海山」は、豊かな自然環境を形成し、人々に豊穰の恵みをもたらす自然遺産であり、昭和 38 年（1963 年）に国定公園に指定され、登山客など多くの人々を迎える貴重な観光資源であります。またその一方で、古より信仰の山として崇められており、正史記述から古代には国家守護神（軍神）として、また、近世以降は農業神として崇拝された神体山であり、平成 21 年（2009 年）には、貴重な文化遺産とし、史跡名称を「鳥海山」として、国から指定されております。

この恵まれた自然環境と併せ、山岳信仰を背景にした民俗芸能や史跡など、文化を活かした観光振興が、地域の特色を出すためには重要なことであります。

由利本荘市が誕生してから 10 年が経過いたしました。市政運営の指針となる『由利本荘市総合発展計画』（平成 17 ～ 26 年度）では、「人と自然が共生する躍動と創造の都市」を新市の将来像に掲げ、これまで、この計画に沿ったまちづくりを着実に進めてきたところであります。この間、日本は、人口減少と少子高齢化が急速に進行したことに加え、地方の衰退など大きな問題に直面し、早急な対応を迫られております。

国では、こうした重層的な問題の解決に向け、東京一極集中を是正し、地方の人口減少を阻止するため、まち・ひと・しごと創生長期ビジョン及び総合戦略を策定し、「地方創生」に向けた本格的な取り組みを進めております。

このような中、地方自治体には地域の特色を活かした施策が求められております。本市では前期計画に引き続き、平成 27 ～ 36 年度までの 10 年間にわたる由利本荘市総合計画『新創造ビジョン』を策定し、5 つある基本政策の第 1 項目に「力強い産業振興と雇用創出」を掲げ、これを達成するため「観光の振興」が戦略の 1 つとなっております。「鳥海山を核とする多様な体験型プログラムの充実」、「二次アクセスの確立」、「国内外への情報発信力の強化」、「拠点施設を含めた環境整備」などを行い、『滞在型観光』への転換を図って参りたいと考えております。

新創造ビジョンと整合性を持たせながら、本市の特色ある豊かな資源を活かした観光振興施策を展開し、地域の産業と経済を活性化させるため、この度、その指針となる『由利本荘市観光振興計画』を策定いたしました。

この計画に基づき、市民を交えた形で、1 年ごとに事業の検証と計画の見直しを行いながら、観光地としてのブランド化を推進して参ります。

結びに、本計画の策定にあたり、アンケートへのご協力と併せ、貴重なご意見、ご提言をいただきました市民の皆様をはじめ、熱心にご協議いただきました由利本荘市観光振興計画策定委員会の委員の皆様にご心からお礼を申し上げ、あいさついたします。

目 次

本 編

序 章 由利本荘市観光振興計画の策定にあたって

- 1. 計画策定の背景と目的・・・・・・・・・・・・・P1
- 2. 計画の位置づけ・・・・・・・・・・・・・P2
- 3. 計画の期間・・・・・・・・・・・・・P2

第1章 観光の現状

- 1－1. 全国的な観光動向・・・・・・・・・・・・・P3
- 1－2. 秋田県の観光動向・・・・・・・・・・・・・P6

資料：観光白書（国土交通省）

第2章 由利本荘市の観光の現状と課題

- 2－1. 由利本荘市の観光の現状と課題・・・・・・・・・・・・・P7
- 2－2. 由利本荘市観光振興計画（前計画）の
施策の達成状況と評価・・・・・・・・・・・・・P10

第3章 由利本荘市の観光振興の基本的な考え方

- 3－1. 観光振興施策の基本理念・・・・・・・・・・・・・P13
- 3－2. 由利本荘市のめざす姿・・・・・・・・・・・・・P13
- 3－3. 基本戦略の体系・・・・・・・・・・・・・P15
- 3－4. 市民が一丸となった「おもてなし」・・・・・・・・・・・・・P17
- 3－5. 目標の設定と検証・・・・・・・・・・・・・P18

第4章 観光振興施策

- 4－1. 基本戦略・・・・・・・・・・・・・P19
- 4－2. 戦略の考え方とテーマ別施策・・・・・・・・・・・・・P21

第5章 計画の推進体制

- 5－1. 計画の推進体制・・・・・・・・・・・・・P25
- 5－2. テーマ別施策の推進プログラム・・・・・・・・・・・・・P26
- 5－3. 総合計画に基づく施設整備等の事業計画・・・・・・・・・・・・・P27
- 5－4. 地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金
に基づく事業計画・・・・・・・・・・・・・P29

目 次

資料編

I. 計画策定の経緯

- 1. 策定までの流れ、関連会議の開催等・・・・・・・・・・・・・P31

II. 観光の現状

- 1. 全国的な観光の動向・・・・・・・・・・・・・P33
- 2. 東北・秋田県の観光の動向・・・・・・・・・・・・・P38
- 3. 由利本荘市の観光の現状・・・・・・・・・・・・・P41

III. 鳥海山を核とした広域観光振興プロジェクト・・・・・・・・・・・・・P42

IV. 各種調査結果の概要

- 1. 宿泊客アンケート調査結果（宿泊得々キャンペーン）・・・・・・・・・・・・・P47
- 2. SWOT 分析法による鳥海エリアの「強み」「機会」「脅威」「弱み」・・・P51

V. 由利本荘市の道の駅の魅力

- 1. 道の駅「岩城」・・・・・・・・・・・・・P54
- 2. 道の駅「おおうち」・・・・・・・・・・・・・P55
- 3. 道の駅「東由利」・・・・・・・・・・・・・P56
- 4. 道の駅「にしめ」・・・・・・・・・・・・・P57
- 5. 道の駅「清水の里・鳥海郷」・・・・・・・・・・・・・P58

VI. おすすめ観光ツアー

- 1. 日帰りプラン・・・・・・・・・・・・・P59
- 2. 1泊2日プラン・・・・・・・・・・・・・P61

VII. 由利本荘市の特産品・工芸品

- 1. 地域のご自慢の品々・・・・・・・・・・・・・P63

VIII. 鳥海山の四季の彩り

- 1. 鳥海山の四季・・・・・・・・・・・・・P65
- 2. 由利本荘市の「花めぐり」・・・・・・・・・・・・・P66

IX. それぞれの地域の魅力

- 1. 本荘、矢島、岩城、由利、大内、東由利、西目、鳥海・・・・・・・・・・・・・P67

X. 由利本荘市のイベント

- 1. 由利本荘市イベント一覧・・・・・・・・・・・・・P75

【由利本荘市観光振興計画策定委員会委員名簿】・・・・・・・・・・・・・P77



由利本荘市観光振興計画の 策定にあたって

1 計画策定の背景と目的

平成17年3月22日に1市7町が合併して由利本荘市が誕生し、それぞれの地域が持つ特性や文化を共生させた上での融合と、調和のとれた発展を重視する市政の幕開けとなりました。「住んで良かった」・「住んでみたい」・「住み続けたい」と思える新しい郷土づくりを進め、山・川・海の豊かな自然と調和した、健康で快適な地域社会を実現するため、平成17年度から平成26年度におけるまちづくり指針「由利本荘市総合発展計画」が、平成18年3月に策定され、重点課題のひとつに観光振興が位置付けられました。

由利本荘市総合発展計画に基づき、平成19年3月には、平成26年度までの方策を明らかにした「由利本荘市観光振興計画」が策定されました。

この観光振興計画では、既存の観光資源の再確認を行うと同時に、新たな資源の掘り起こしを行い、地域の魅力を広く発信して知名度を高め、観光地としての由利本荘市の姿を追求するため、観光基盤の整備を図るとともに、行政と市民が一体となって観光客をもてなす心、「ホスピタリティ」の向上に努め、「再び訪れたいところ」と言われるような観光地としての確立をめざすこととしています。

本市は、「鳥海山」・「子吉川」・「日本海」など豊富な自然環境に恵まれ、風光明媚な観光スポットをはじめ、登山・トレッキング・サイクリング・キャンプ・スキー・スノーモービルなどが楽しめるアウトドアスポットや、山・川・海からなる多彩な食の恵みに加え、地域によって泉質の異なる良質な温泉を兼ね備えています。

また、各地域に残る旧城下町の風情や、伝統ある祭りや民俗芸能のほか、のどかな田園空間を走るローカル線「由利高原鉄道」、各地域で開催される特色あるイベントなど多くの素材を統合し、本市の「観光資源」として捉え、観光振興を図ります。

前期の計画では、鳥海グリーンラインの整備とそれを結ぶ高原の駅が設置された

ほか、観光誘客のための新たなイベントとして、平成21年から「菜の花まつり」、平成22年から「由利本荘ひな街道町中ひなめぐり」などを開催し、平成24年には「桑ノ木台湿原」をオープンするなど、観光資源の掘り起こしと整備が進められたほか、訪日観光を促進するための情報発信や助成制度の創設が行われました。

また、ホスピタリティ向上のため、市文化交流館・カダーレ内に観光情報案内コーナーを設置し、併せて市内には外国語表記を加えた観光誘導看板等の整備が年次計画で進められてきました。

前期計画の終期となる平成26年度には、県全体の地域活性化を図るため、県の交付金事業として実施される『あきた未来づくりプログラム』に着手し、県やにかほ市と協働により、地域のシンボルを冠した「鳥海山を核とした広域観光振興プロジェクト」に取り組んでいます。これを本市の観光振興の柱とし、地域の豊かな観光資源をフルに活用した観光地づくりを推進し、様々な体験メニューを付加することによって、鳥海山北麓の観光地、「鳥海エリア」全体でこれまでの収益性の低い「通過型観光」から「滞在型観光」への転換を図り、地域経済の活性化に寄与する観光産業の構築をめざします。

また、台湾をはじめとするインバウンドの促進のため、観光客の視点に立った観光地づくりをめざし、今ある観光資源に磨きをかけ、観光拠点施設の整備拡充を行うとともに、観光地への二次アクセスを確立し、観光客の利便性を高めた上で、他とは差別化(ブランド化)された旅行商品の提供を行います。

環鳥海として、にかほ市や庄内地域の自治体とも連携を行うほか、民間業者や地域住民との連携を強化し、効果的に情報を発信しながら「鳥海エリア」の知名度を向上させ、交流人口を拡大させながら、地域の経済と産業の活性化を図ります。

2 計画の位置づけ

本計画は、「由利本荘市総合計画」の下位に位置づけられるもので、本市における観光振興施策の理念と具体的施策を示しています。

これらの観光振興施策を達成するため、秋田県並びに、にかほ市との連携を密にし、由利地域観光推進機構と事業の調整を図りながら、市民、観光関連事業者、市観光協会など一体となって、計画の実現に向けて取り組んでいきます。

なお、毎年検証委員会を開催し、パブリックコメントなどもあわせた形で計画の検証を行い、時代と旅行ニーズの変化に応じ、見直しを行うことにしています。

3 計画の期間

本計画の期間は、平成27年度から平成36年度までの10年を目途とします。



1-1 全国的な観光動向

(1) 我が国の観光を取り巻く環境

①国内旅行市場の動向

我が国における国内旅行市場は、国内経済が緩やかな改善が続いているものの個人消費は足踏み状態になっており、旅行回数、宿泊数、消費額ともに減少傾向にあります。人口の減少や、趣味やレジャーの多様化の影響があるほか、いわゆる「安・近・短」志向の高まりによって、旅行消費単価が下落してきていることから、「国内旅行消費額」は、平成18年(2006年)の30.1兆円をピークに下がり続けており、平成23年(2011年)には22.4兆円と2割以上減少しています。

一方で、平成24年(2012年)に入り、東日本大震災や所得の減少などで落ち込んだ国内旅行が持ち直しつつあり、景気回復ムードや円安傾向による旅行機運の上昇に大きな期待が寄せられています。今後はさらに、こうした旅行市場の動向を背景に、観光地間競争が激化していくものと予測されます。

②旅行形態の変化について

●団体旅行から個人旅行へ

バブル経済崩壊以降、団体旅行から個人・小グループ旅行へのシフトが急速に進み、平成21年(2009年)以降は旅行ニーズの多様化に伴って、個人旅行の割合が7割以上を占め、団体旅行の減少が加速化しています。特に、女性やシニア層における少人数のグループ旅行が増え、宿泊施設でも少人数と個人客への対応が急務となっています。

●宿泊旅行から日帰り旅行へ

旅行ニーズの変化や消費単価の下落に加え、近年、高速道路網の整備や新幹線の高速化など交通インフラの整備が進み、移動時間が短縮化しています。その為、これまで宿泊が必要な観光地へも日帰り旅行が可能になったこともあり、日帰り旅行へのシフトが進んでいます。

③旅行ニーズの変化について

近年、単に有名観光地を見るだけではなく、個々の価値観やニーズに応じたテーマ性の強い「参加・体験型」旅行の人气が高まっています。特に、農山漁村で生活や就業体験を楽しむグリーンツーリズムやエコツーリズム、サイクリング、マラソン、ハイキング等のスポーツツーリズム、地域の産業基盤そのものを活用した産業観光等にも注目が集まるなど、新たな観光需要を掘り起こす起爆剤として期待されています。

④インターネットの普及による影響

平成20年(2008年)以降、旅行先の情報源として「インターネット」が最多であり、特に近年は、スマートフォンやSNS(ソーシャル・ネットワーク・サービス)の普及に伴って、友人、知人のくちこみや、仲間同士による情報を参考にする人が急速に増加しています。

また、インターネットの普及に伴い、「楽天トラベル」や「じゃらん」などのオンライン・エージェント経由の旅行、宿泊予約も急激に増加し、個人および小グループ旅行が増加し、低価格志向の一因にもなっています。

(2) 国の観光施策

①「観光立国推進基本計画」について

政府は、「観光立国」の実現に向けて、平成18年(2006年)12月に基本理念等を定めた「観光立国推進基本法」を制定(平成19年(2007年)1月施行)、平成20年(2008年)10月には推進母体として「観光庁」を設置しました。

さらに、平成24年(2012年)3月には、「観光立国推進基本計画」(平成24年～平成28年)を策定し、平成28年(2016年)までに、「国内旅行消費額」を年間30兆円、「訪日外国人旅行者数」を年間1,800万人にすることなどを目標に掲げ、その実現に向けて総合的かつ計画的に推進しています。

【観光立国の実現に関する目標】

目標の分類	観光立国の実現に関する目標
観光立国の実現に関する目標	1. 国内における旅行消費額 [平成21年(2009年):25.5兆円] →平成28年(2016年)までに30兆円
観光による国内消費の拡大	2. 訪日外国人旅行者数 [平成22年(2010年)実績861万人、平成23年(2011年)推計:622万人] →平成28年(2016年)までに1,800万人
	3. 訪日外国人の満足度 [平成23年(2011年):大変満足43.6%、必ず訪問したい58.4%] →大変満足45%程度、必ず訪問したい60%程度
	4. 国際会議の開催件数 [平成22年(2010年):741件] →平成28年までに5割増以上、アジア最大の開催国
	5. 日本人の海外旅行者数 [平成23年(2011年)推計:1,699万人]→2,000万人
	6. 国内宿泊観光旅行の年間平均宿泊数 [平成22年(2010年):2.12泊]→2.5泊
	7. 国内観光地域の旅行者満足度 [実績値なし]→大変満足・必ず再訪したい25%程度

②日本再興戦略－JAPAN is BACK－

平成25年(2013年)6月に公表された「日本再興戦略」において、観光については、「日本ブランドの作り上げと発信」、「ビザ要件の緩和等による訪日旅行の促進」、「外国人旅行者の受入の改善」、「国際会議等(MICE)の誘致や投資の促進」の4つの重点分野の施策推進を着実に進め、訪日外国人旅行者数のさらなる増加をめざすこととしています。

1-2 秋田県の観光動向

(1) 秋田県の観光を取り巻く環境

①秋田県における人口減少と少子高齢化

秋田県では、全国的に見ても非常に速く少子高齢化が進んでおり、消費の低迷や農山漁村を中心とした中山間地域の活力低下が懸念されています。

こうした中、農山漁村等での生活、就業、民泊等の体験や、自然や景観を活かしたスポーツ・ヘルスツーリズム等による観光ポイントの形成は、近年の旅行ニーズにマッチした有効な戦略の一つであり、観光交流人口の拡大を通じ、生活、経済の両面において地域活性化の起爆剤になるものと期待されています。

(2) 交通アクセス

秋田県は、中央部を秋田自動車道が東西に、海岸部を日本海東北自動車道が南北に走り、県内の主要都市、港湾、空港、JR駅等を結んでいます。

また、県内には4つの新幹線の駅があり、平成25年(2013年)3月には、「スーパーこまち」が導入されるなど、首都圏や仙台圏からのアクセスの向上が図られています。

空の玄関口としては、秋田空港及び大館能代空港が整備されており、東京や大阪、名古屋、札幌といった国内の大都市や、韓国の首都ソウルとの間で定期便が就航しています。

(3) 大型コンベンション

秋田県では、これまで、平成19年(2007年)に「秋田わか杉国体」、平成25年(2013年)に「秋田デスティネーションキャンペーン」、平成26年(2014年)に「国民文化祭・あきた2014」と、全国規模の大型イベントが開催され、観光客の誘客を図ってきました。

この後も、平成28年には青函DCが予定されており、秋田新幹線や五能線などの観光列車の相互乗り入れによって本県への観光客の誘導が期待されています。続いて平成29年(2017年)に全国健康福祉大会(ねんりんピック)が予定されており、「スポーツ立県あきた」としてプロスポーツの育成と併せ、スポーツ交流によって県外からの誘客を推進していく計画です。平成32年(2020年)には、東京オリンピック、パラリンピックが開催されることから、スポーツ環境が大きく変化することが推測され、観光面でも大きな効果が期待されます。



2-1 由利本荘市の観光の現状と課題

(1) 現状について

①全般

本市では、県内各市町村と同様に、進行する少子高齢化と、人口の減少が深刻な問題となっています。

また、地域の基幹産業である農業は、米価の下落や後継者不足が深刻な問題となっているほか、これまで地域経済を牽引してきた製造業は、現在は国の景気対策によって円安が進み緩やかな回復基調にあるものの、グローバル企業であるが故、過去にリストラや海外展開などの改善策が実施されており、地域の雇用状況は必ずしもすぐには改善されない状況にあります。

社会情勢が大きく変化する中、雇用を含め、地域の産業と経済の活性化に寄与することのできる「観光振興」が市民から求められ、その実現に期待が寄せられています。

このような現状のもと、本市では観光振興を市の重点施策に掲げ、「観光振興による賑わいの創出」を目指し、地域のシンボルとして市民に親しまれ、最大の観光資源である「鳥海山を核とした滞在型観光」の実現に向けた施策を展開しています。

②観光入込客数

年	単位：人	備考
平成19年	3,193,349	国民体育大会
平成20年	2,913,166	
平成21年	2,941,636	
平成22年	2,804,826	
平成23年	2,438,190	東日本大震災・全国高校総体
平成24年	2,576,036	ミニ国体、プレDC
平成25年	2,408,997	秋田DC
平成26年	2,400,878	国民文化祭、アフターDC

③宿泊客数

年	単位：人	備考
平成19年	111,054	国民体育大会
平成20年	112,877	
平成21年	91,750	
平成22年	81,428	
平成23年	85,511	東日本大震災・全国高校総体
平成24年	84,574	ミニ国体
平成25年	90,236	秋田DC
平成26年	(未集計)	

④訪日観光客数

年度	合計人数	(内台湾)	(内韓国)	(内香港)	備考
平成22年度	23	23	0		
平成23年度	190	不明	不明		東日本大震災
平成24年度	361	287	57	17	
平成25年度	600	524	76	0	
平成26年度	871	732	139		

※数値は、友好都市からの訪日(中国無錫市、ハンガリーヴァーツ市、韓国梁山市)や、国際文化交流事業(韓国舞踊団120泊)並びに、個人観光客を除く。
※平成24年度からは、宿泊費助成制度の実績。(延べ宿泊数の年度集計)

(2) 課題について

①情報発信力が弱く、観光地としての全国的な知名度が低い

本市は、鳥海山を核とする観光名所や食、温泉等の多彩な観光資源に恵まれています。民間の調査でも、本市の情報に対する認知度が低く、全国の消費者にその魅力を十分に伝えることができていないのが現状です。

一例として、首都圏等では「鳥海山」など一部の観光コンテンツしか知られておらず、知名度の浸透、魅力の訴求力が低く改善の余地があります。すぐれた観光素材を持ちながら観光の動機付けにつなげていないことから、今後は情報発信力を強化し、パブリシティ等PR告知により、認知度の向上やブランド力の強化を図っていくことが必要です。

②着地側における、宿泊、滞在を促す観光資源やルートの形成が不十分

本市の、食や温泉、宿泊施設、体験型観光など優れた観光資源と魅力を、誘客に結びつける企画が必要と思われます。

宿泊や滞在を促す観光資源の掘り起こしやブラッシュアップ、魅力の向上、広域連携の強化などの取り組みを積極的に進め、リピーターを含めた宿泊客の誘致拡大にしっかりつなげていくことが重要です。

③交通二次アクセスが弱く、効率的な周遊や観光ルートの形成が難しい

本市の観光は、鳥海山を核とした周遊観光を推進しているが、交通二次アクセスが弱く、効率的な観光ルートや旅行商品の造成が難しい状況にあり、誘客対策上の大きな課題となっています。

こうした実態を把握し、分析した上で、関係機関等が相互に連携を図りながら、改善に向けた取り組みを積極的に進めていくことで観光振興につなげる必要があります。

④東アジアを中心とした訪日旅行客の受入体制が不十分

外国人観光客の誘致にあたっては、国内以上に全国的な知名度やサービス、価格面での優位性が求められます。近年、中国、台湾、韓国からの観光客が日本国内に多く訪れていますが、これら東アジアの地域や、タイをはじめとする東南アジアにターゲットを絞り、徐々に知名度の向上を図る必要があります。

本市においては、観光地としての知名度の低さや、交通アクセスの不便さ等に課題が多くありますが、今後は、韓国や台湾、タイにおいて、トップセールスにより、更なる売り込みを強化していくとともに、受入体制の改善を積極的に進め、受入シェアの計画的な拡大に努めていく事が求められます。

②一2 由利本荘市観光振興計画(前計画)の
施策の達成状況と評価

本市では、平成19年3月に「由利本荘市観光振興計画」を策定し、平成17～26年度までの10ヵ年を計画期間として、観光振興施策を実施してきました。ここでは、これまでの施策の達成状況と評価を行います。

(1) 由利本荘市観光振興計画（平成17～26年度）の
施策と達成状況

①長期的視点に立ち自然資源の保護に努める

●本市の観光魅力の礎である自然資源の魅力の保護と活用。

→桑ノ木台湿原では、木道を整備し自然の保護を図るとともに、自然を活かした新たな観光スポットとしてオープンしました。

②鳥海山の魅力を束ねて回遊を促進する

●各資源の魅力を束ね鳥海山麓全体でひとつの大きな資源に育てる。

●「環鳥海」の実現に向け、本市と関連地が連携して推進する。

→あきた未来づくりプロジェクト推進事業「鳥海山を核とした広域観光振興プロジェクト」では、秋田県並びに、にかほ市と連携し、観光地「鳥海エリア」の一体的な構築に着手しています。

③観光交流施設を見直し、施設間連携を進める

●施設の運営の改善を検討する。

●情報の共有化など、施設間の連携を強化する。

→観光交流施設については、市総合発展計画の年次計画に基づいて整備するとともに、道の駅や高原の駅など施設間連携を強化することにより、周遊・滞在型の観光地づくりが進められてきました。観光道路として鳥海グリーンラインが整備され、にかほ市を含め高原の駅を結びつけたスタンプラリーを開催しているほか、市内にある5つの道の駅では、毎月第4日曜日を「道の駅の日」とし、特色ある取り組みを行いながら、道の駅と道の駅を結びつけるコースを紹介し、誘客促進における相乗効果をねらった事業に取り組んでいます。

④新たな魅力ある観光メニューを創出する

- 新たな魅力の発見と活用を推進する。
 - スポーツ合宿やスポーツイベントによる新しい地域のイメージを創出する。
- 新たなイベントとして、「鳥海高原菜の花まつり（平成21年度～）」、「由利本荘ひな街道町中ひなめぐり（平成22年度～）」、「まるっと鳥海シュークリームロード（平成22年度～）」、「鳥海山SEA TO SUMMIT（平成23年度～）」を民間主導で開催し、観光誘客の拡大に努めています。
- また、本市では市民が広くスポーツに親しみ、スポーツに対する関心が高く、国民体育大会（秋田わか杉国会）やインターハイ、各種社会人大会など全国規模の大会を数多く開催してきており、各競技に対応するスポーツ施設が整っているほか、地元体育協会などを中心に大会を受け入れるための体制が整っています。このことに着目し、「スポーツツーリズム推進事業」として、市外からスポーツの大会や合宿で本市を訪れ、宿泊する選手をはじめ、応援で来てくれる方を対象として宿泊費を助成し、誘客の拡大に努めています。

⑤時間的にゆとりのある大人のマーケットに目を向ける

- 体験や交流型の旅行、テーマ性のある旅行への取り組みを強化する。
- 新たなメニューとして、ツアーの中に、本市を代表する工芸品である「本荘ごてんまり制作体験・由利本荘傘鉾つるし飾り制作体験」や、集落での「そば打ち・石窯ピザづくり」など「人と人との交流」も体験に取り入れています。また、本市は伝統芸能や寺社・仏閣などの文化財が多いため、文化遺産を活かした観光振興や、ガイドの説明付きで地域をゆっくり歩きながらまち並を楽しむことのできる「フットパス」に取り組んでいます。

⑥特産品の充実を図る

- 魅力のある特産品の拾い出しと、新たな特産品の開発を進める。
 - 特産品を提供する場の整備を図る。
- 新たな特産品の開発を進めるため、6次産業化による商品開発を支援するとともに、文化交流館カダーレ内に本市の特産品を取り扱う「ゆりぶらざ」（平成23年オープン）や民間企業と連携したアンテナ居酒屋である、『由利本荘市うまいもの酒場』（東京都神田）を平成26年にオープンし、山・川・海からの豊かな自然の恵み（食材）や、観光PRを行い地元の農林水産物の販売拡大と、観光誘客の促進を図っています。

（2）由利本荘市観光振興計画（平成17～26年度）における目標数値と達成状況

「由利本荘市観光振興計画（前計画）」では、地域の持つ特性を活かした観光振興を図るため、市域を「鳥海山麓観光交流ゾーン」・「沿岸観光交流ゾーン」・「田園生活ゾーン」の3つのゾーンに区分し、それぞれのゾーンごとに計画を策定しています。この中で交流ゾーンの施設整備事業をはじめ、山・川・海の自然の魅力を活かした体験交流による観光誘客や、新たなイベントの開催などにより、平成17年の実績をもとに、10年後の目標数値を30％増という方針で数値目標が定められました。目標と結果は以下のとおりとなっています。



※調査対象施設の変更による。
平成19年国体開催時点で3,194千人であり、以降2,400～3,000千人の間で推移するが、東日本大震災での激減以来、震災前の入込数を回復できていない。



※H26年実績については、調査はなく、アンケート等からの推定数値である。



※調査対象施設数の変更により、単純な比較ができない。平成19年国体開催時点で111千人であり以降は90千人程度と横ばい状態である。（平成26年未集計）



第3章 由利本荘市の観光振興の基本的な考え方

3-1 観光振興施策の基本理念

由利本荘市では、交流人口の創出によって地域の産業と経済を活性化させるため観光振興施策に取り組むこととし、次の基本的な考え方に基づき施策を展開します。

※新たな基本理念として

- 持続的に地域経済に寄与する観光産業を構築する
- 地域ブランドを確立する
- 観光スポットの魅力を向上させる
- 通過型観光から滞在型観光へ転換を図る
- 広域連携を強化し「鳥海エリア」の認知度を高める
- 「おもてなし」の環境整備を図る

3-2 由利本荘市のめざす姿

由利本荘市は、秀峰鳥海山を源流とする清流子吉川が実り多き田園地帯を形成し、そして紺青の日本海に注ぎこむ、「山・川・海」の豊かな自然に恵まれた地域です。

この豊かな自然の恵みを受けた地域の基幹産業である農業をはじめ、林業、水産業をこれからも守り育てていきます。全国有数の広大な面積を有し、地域特性を活かした発展を目指すとともに、秋田県立大学を核とした学園都市づくりを推進し、市内外の活発な交流を促しながら、市民が市全域で生き活きと躍動する新たなまちづくりをめざしています。

それぞれの地域の独自性を活かしながら、各地域における自治活動を通して地域の魅力を高め、地域を支える人づくりを進め、うるおいとやすらぎにあふれ、市民一人ひとりが幸せと誇りを実感できるように、市民と行政が協働して新しいまちの可能性を切り開いていき、地域の課題は地域が解決していける自立した新たなまちづくりをめざしていきます。

〈まちの将来像〉

人と自然が共生する躍動と創造の都市^{まち}
～新たな「由利本荘市」への進化～

由利本荘市は、鳥海山から日本海までの豊かな自然に恵まれ、滝や湖沼をはじめ、秀峰鳥海山を背景に、自然散策やスポーツを楽しむことのできる高原や湿原などの観光スポットが多く存在しています。また、そのような環境で育まれた多彩な食の恵みや名水、地域によって泉質が異なる良質な温泉をはじめ、スポーツ・健康・歴史・文化・酒蔵・エネルギー・ローカル鉄道など多彩な観光資源を有し、これらを活用した観光ツアーの造成や、ルート整備が可能です。

高原地帯では冬から春にかけて、スキーやスノーモービル、雪上車体験など雪を活用したスポーツや遊びを楽しむことができます。

このように、ポテンシャルの高い観光資源に磨きをかけ、観光客の視点に立った形で受け入れ体制をも含めた環境整備を行うことが、観光地としての魅力の向上につながります。

道の駅や高原の駅などでは、そこにしかない特色のある自慢の一品を開発し、効果的に情報を発信するほか、観光客が市内の観光ルートなどを客観的に比較・選択できるように、横並びで統一された情報を発信できるシステムを構築することも必要となってきます。

情報発信の重要性と効果的な発信に主眼をおいた情報を作り上げ、活用するツールを研究した上で広く発信し、観光地「鳥海エリア」としての認知度を高めていきます。

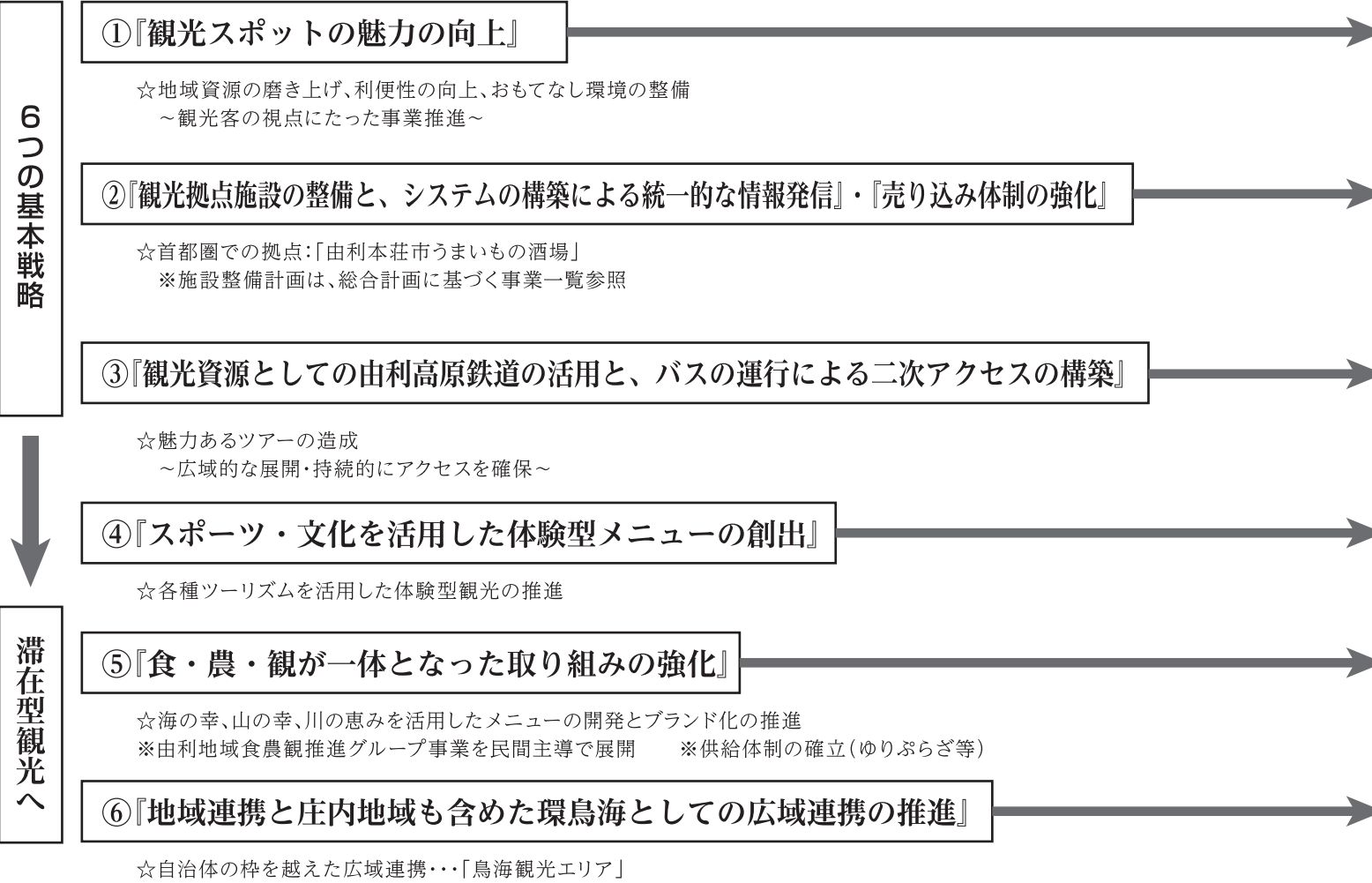
3-3 基本戦略の体系

〈基本理念〉

- 持続的に地域経済に寄与する観光産業を構築する
- 地域ブランドを確立する
- 観光スポットの魅力を向上させる
- 通過型観光から滞在型観光へ転換を図る
- 広域連携を強化し「鳥海エリア」の認知度を高める
- 「おもてなし」の環境整備を図る

交流人口を創出し、地域の産業と経済を活性化

〈基本戦略〉『鳥海山を核とした広域観光振興』の推進
～鳥海山から日本海まで広がる多彩な「自然・食・文化」～



- 重点強化項目
- ・あきた未来づくりプロジェクト推進事業の実施→ 施設・推進体制等の整備と強化
 - ・仙台圏・首都圏並びに訪日観光誘客による交流人口の拡大
 - ・情報発信体系の整備（道の駅等）
 - ・集客力のあるイベント開催（イベント一覧参照）
 - ・観光協会の組織強化・自立体制整備

〈まちの将来像〉：由利本荘市のめざす姿

人と自然が共生する躍動と創造の都市^{まち}

☆由利本荘市総合計画（平成27～36年度）・「新創造ビジョン」

☆市総合計画「新創造ビジョン」に基づく事業展開・・・（別紙事業一覧参照）
○あきた未来づくりプロジェクト推進事業 ○訪日観光誘客促進事業ほか

○地域の資源と特性を活かす ここにしかないもの→『地域ブランド』を確立する

○おもてなし観光推進モデル事業 （仙台圏を対象：着地情報の発信による観光誘導の仕掛け）
○言語案内人育成事業 （観光客の多い台湾と今後期待ができる中国への対応：中国語教室）
○歴史まちなみ案内看板整備事業 （矢島、亀田、由利、石脇）→一人でも楽しめるまち
○桑ノ木台湿原環境整備事業 （森の休憩所整備、シャトルバス運行、携帯電話不感地帯解消）

○観光誘客促進事業 （仙台圏、首都圏PR・訪日観光促進）、（まるごと売り込み事業）
○鳥海山観光魅力アップ事業 （花立クリーンハイツ）
○天空カフェ建設事業 （祓川・竜ヶ原湿原）
○情報発信体系の整備・連携 （データベース化、統一した発信）
○無料無線公衆LAN設置事業 （鳥海郷・大内ぼろっこ・天鷲村・ユースパーク）
○市道局部改良事業 （祓川線・祓川堰口線）
○観光パンフレットの新規作成
○七ツ釜避難小屋トイレ整備

○鳥海山麓二次アクセス確立事業 （周遊バス運行、秋田駅・空港発着ツアー造成）
※由利高原鉄道との連携（庄内地域との連携によるツアー造成）
※鉄道を観光資源として活用（桑ノ木台湿原シャトルバス運行を拡大）

○スポーツツーリズム推進事業 （宿泊費助成による、大会や合宿の誘致）☆東京オリンピック
○体験型メニューの造成、多様な分野での連携基盤の構築
（ジャージー牛乳アイスづくり、茶道体験、本荘ごてんまり制作体験、フットパス、石釜ピザづくり、そば打ち）
○伝統工芸品製作後継者育成事業 （本荘ごてんまり、刺し子）
○由利地域観光推進機構事業 （体験提供者育成、スポーツ分代会による大学・社会人の大会や合宿誘致の実証事業）

○販路拡大：まるごと売り込み事業 （首都圏を中心に、農産品、特産品、観光を売り込む）
○食・農・観ビジネス等重点支援地域形成事業 （ご当地メニュー、特産品の開発・販促）

○鳥海国定公園の整備と活用（秋田県・山形県庄内地域と連携）
○秋田・山形両県並びに、関係自治体が連携して誘客の相乗効果を目指す
※各種事業の展開

◆◆ 観光誘客促進のための事業展開 ◆◆

- あきた未来づくりプロジェクト推進事業（H26～28年度実施、以後、事業の検証＋単独で事業実施）
- 訪日観光助成（台湾・中国・韓国・タイ等）、（友好都市である中国無錫市からは修学旅行の受け入れを検討）
- スポーツツーリズム推進事業（助成制度）
- 「スポーツ・酒蔵・エコ・グリーン・ヘルス」ツーリズム＋鳥海ガムの着工を見込んだインフラツーリズムの検討
- 環鳥海の連携による「SEA TO SUMMIT」の開催
- 「鳥海山・飛鳥ジオパーク」の形成と活用（H28年度認定予定で市として計画推進）
- 広域連携による誘客促進を図るため、環鳥海の自治体と民間企業が連携した「エコトラック」構想を推進
- 各種イベント、スキー、スノーモービル、雪上車、雪まつり（由利、東由利、鳥海の3地域）の活用
- 首都圏並びに仙台圏への誘客促進活動と、特産品の販路拡大事業
- 市民が一丸となった「おもてなし」体制の推進

③ー4 市民が一丸となった「おもてなし」
～お客様の満足度の向上に向け～

本市の中心市街地である本荘地域で、かつて明るい市民生活を築くための合い言葉として使用された「花と緑と太陽を」を、本市の「おもてなし」環境の構築のためのキャッチフレーズに引用し、お客様の満足度を向上させ、由利本荘市を観光の目的地とするファンを増やし、信頼関係を築き上げ、リピーターとなっただくため、観光関連業者はもとより、市民が一丸となって「心のこもったおもてなし」でお客さまを迎えます。相手にきちんと伝わり、心地良く思っただけけるようなおもてなしを信念に、観光地としての魅力を高めていきます。

「花と緑と太陽（ぬくもり）を！！」

- 花　＝　今ある観光資源を提供するだけでなく、お客様の気持ちになって喜んでもらえるよう花（一工夫）をそえる！
- 緑　＝　緑豊かな自然をフルに活用し、お客様を癒しの空間に誘う！
- 太陽＝　お客様の立場になって、はじめて訪れたまちでの不安をなくすため、優しいひかり（ぬくもり）を心地よく感じていただき、旅を楽しんでもらう！

- お客様に地域にひかりをあててもらえるよう！
- 口頭でのコミュニケーションでわかりやすく！

「くちこみによる魅力の伝播のすごさと
リピーターの大切さを胸に!!」

③ー5 目標の設定と検証

※あきた未来づくりプロジェクトでの目標設定

本計画において実施する施設整備事業をはじめ、鳥海山を核とする多様かつ広域的な観光プログラムの充実、自然・産業・エネルギー資源・健康・文化や教育など豊富な地域資源をフルに活用した、付加価値の高い交流・ツーリズムを推進することにより、平成26年度の数値を基に、10年後の目標数値を以下のとおり設定します。

成果指標	現状値(H26)	目標値(H36)
観光入込客数	2,400,000人	2,750,000人
訪日観光客数	871人	1,300人
宿泊者数	95,000人	114,000人
鳥海山案内人ガイド回数(人数)	77回(1,570人)	95回(2,090人)
鳥海山麓シャトルバス・周遊バスの利用者数	3,502人	7,000人
本市へのツアー本数	70本	120本

上記の目標数値については、策定委員によって毎年検証を行い、市民の意見も反映させながら観光をとりまく社会情勢の変化をも的確に判断し、見直しを行っています。



第4章 観光振興施策

4-1 基本戦略

『鳥海山を核とした広域観光振興』を推進するため、次の6つの基本戦略を展開します。

【基本戦略】

- ①『観光スポットの魅力の向上』
- ②『観光拠点施設の整備と、システムの構築による統一的な情報発信』・『売り込み体制の強化』
- ③『観光資源としての由利高原鉄道の活用と、バス運行を併用した二次アクセスの構築』
- ④『スポーツ・文化を活用した体験型メニューの創出』
- ⑤『食・農・観が一体となった取組の強化』
- ⑥『地域連携と庄内地域も含めた環鳥海としての広域連携の推進』

◎基本戦略の背景

- ①『観光スポットの魅力の向上』
 - ・観光スポットは数多くあるが、観光客の視点にたった観光地づくりがなされているか。
 - ・地元が思っているほど本当に魅力的なのか。不便と推測される点は改善されているか。
 - ・個々の観光スポットの魅力を向上させるための磨き上げがなされているか。
 - ・他に比較して競争力を持ったブランド化がなされているのか。

- ②『観光拠点施設の整備と、統一的な観光情報の発信』
 - ・観光客を迎え入れるための施設は整っているのか。
 - ・観光スポットにおいて、雨天時や非常時に活用出来る施設はあるのか。
 - ・観光客の都合に合わせ、選択できるような観光ルートはあるのか。
 - ・観光客の時間や趣味嗜好に合わせて選択できるような統一した情報はあるのか。（市内の施設を横並びにして、好きな所を選択して周遊できる仕掛けづくり）

- ③『観光資源としての由利高原鉄道の活用と、バス運行を併用した二次アクセスの構築』
 - ・ローカル線である「由利高原鉄道」の魅力と沿線の風景を融合させながら観光資源とし十分活用されているか。
 - ・由利高原鉄道を下車した観光客をどうやって鳥海山へ誘うか。
 - ・市内の観光スポット（イベントを含む）をどう結びつけ、どうやってそこへ連れていくのか。
 - ・観光地の二次アクセスを持続的なものとするためには民間の活力が重要となるが、どうやって連携を図っていくのか。自治体と民間の共生策はあるのか。
 - ・鉄道事業、旅行業、バス事業をどう連動させ、効率的かつ経済的な連携体制をつくりあげるのか。

- ④『スポーツ・文化を活用した体験型メニューの創出』
 - ・市内で盛んなスポーツ活動を観光誘客に活用出来ているか。
 - ・地域経済の活性化に活用できているか。
 - ・歴史や文化を観光誘客に結びつけているか。そのための整備はなされているか。

- ⑤『食・農・観が一体となった取組の強化』
 - ・海の幸、山の幸、川の恵みを観光客に上手に伝えているか。
 - ・観光誘客に結びつけるための素材づくりはなされているのか。
 - ・誰が食のメニューや特産品を開発し、どうPRして、流通にのせ販売するのか。
 - ・誰がどう儲けていくのか、継続して利益を確保できるか。

- ⑥『地域連携と庄内地域も含めた環鳥海としての広域連携の推進』
 - ・鳥海山北麓にどうやって観光客を呼び込むのか。
 - ・観光地「鳥海エリア」はどう形成し、売り込んでいくのか。
 - ・これまでどのような事業で連携がなされてきたのか。誘客効果はあったのか。
 - ・違う自治体が、本当に観光誘客に相乗効果を持たせることは可能なのか。
 - ・今後、どのような戦略をもって連携を果たし、ともに生き残れるのか。

④―2 戦略の考え方とテーマ別施策

◎市の現状は・・・

- ・少子高齢化と人口減少の進行。
- ・企業再編等地域経済の変化。

◎市民に求められるものとは・・・

- ・地域の産業と経済の活性化に寄与出来るような観光振興。

◎ならば・・・地域の特性を活かす(観光のブランド化をめざす)

鳥海山から日本海まで広がる多彩な自然、食、文化など、豊かな資源をフルに活用した観光地づくりの推進。



交流人口の拡大によって地域経済を活性化・・・外貨の獲得

あきた未来づくりプロジェクトの構想を基本とする施策の展開
(ビジョン：実証事業→検証→継続・修正→成果→検証・継続)

※地域のシンボルとしての鳥海山→『鳥海山を核とした広域観光振興』
観光客の視点に立ち、鳥海山北麓に広がる観光地「鳥海エリア」を構築。

①『観光スポットの魅力の向上』

観光スポットにおける利便性の向上を図ると共に、観光客に対する直接的な案内などのおもてなし体制を整備し、魅力づくりを強化する。

- ◆おもてなし観光推進モデル事業
 - ・仙台圏をターゲットとした着地情報の発信による観光誘導の仕組みづくり。
- ◆歴史まちなみ案内看板整備事業
 - ・旧藩時代のまちなみが残る亀田地区、矢島地区、由利地区、石脇地区における案内、誘導看板の設置及び外国語リーフレットの作成。
- ◆桑ノ木台湿原環境整備事業
 - ・桑ノ木台湿原駐車場敷地内への森の休憩所整備及び携帯電話不感地域の解消
 - ・桑ノ木台湿原シャトルバスの運行。

②『観光拠点施設の整備と、統一的な観光情報の発信』

本市観光の核となる「鳥海山」における拠点施設を再整備し、山麓側の総合案内拠点機能を構築する。また、拠点施設間で情報の共有を図り、統一した観光情報を発信できる体制づくりに取り組みます。

- ◆観光誘客促進事業
 - ・首都圏等へのエージェント訪問や観光PRイベントの実施。
 - ・台湾、中国、韓国、タイをターゲットに誘客に向けたプロモーション活動。
- ◆鳥海山観光魅力アップ事業
 - ・鳥海山観光案内拠点となる「花立クリーンハイツ」の再整備。
 - ・鳥海山案内人の育成。
- ◆天空カフェ建設事業
 - ・鳥海山登山者や竜ヶ原湿原への観光客が利用できる、飲食、物販施設の建設。
- ◆情報発信体系の整備
 - ・観光情報データベース化。
 - ・道の駅・高原の駅等での情報の共有と統一した観光情報の発信。
- ◆市道局部改良事業
 - ・大型バスの運行を可能とするため、市道「祓川線」及び「祓川堰口線」の狭隘部分の局部改良を実施。

③『観光資源としての由利高原鉄道の活用と、バス運行を併用した二次アクセスの構築』

ローカル線である由利高原鉄道を観光資源として活用すると共に、観光スポットを周遊するバスを運行するなど、終着駅から鳥海山までの二次アクセスの構築に取り組みます。

- ◆鳥海山麓二次アクセス確立事業
 - ・矢島駅発着で観光スポットを周遊するバスの運行。
 - ・鳥海山麓周遊バスの購入並びに点検格納庫の整備。

④『スポーツ、文化を活用した体験型メニューの創出』

各地域の歴史や文化をからめて、ありのままの風景を楽しめるフットパスや、実践メニューを加えたスポーツ合宿、茶道体験、ごてんまりなどの伝統工芸品づくりといった地場産業を活用した体験メニューを確立します。

- ◆体験型のメニューを造成し、滞在時間延伸のための観光、ルートを提供する。
- ◆伝統工芸品製作後継者育成事業
 - ・代表的工芸品「本荘ごてんまり」と「刺し子」の後継者育成につながる制作教室の開催。
- ◆スポーツツーリズム推進事業
 - ・宿泊費助成を行い、宿泊施設と連携して大会や合宿を誘致する。
- ◆由利地域観光推進機構事業
 - ・スポーツの大会や合宿誘致による交流人口の拡大。

⑤『食、農、観が一体となった取組の強化』

この地域ならではの食材や食文化を活かした食による観光振興と新たな食ビジネスの展開に取り組み、滞在型観光客の増加及び関連事業者等の収入増加、本市の認知度とイメージアップを目指します。

- ◆まるごと売り込み事業
 - ・特産品販路拡大のため、首都圏等のバイヤー訪問や商談会、モニターツアーの開催。
- ◆特産品開発支援事業
 - ・本市の豊かな地域資源や特性を活かした特産品の開発又は改良事業の支援。

⑥『地域連携と庄内地域も含めた環鳥海としての広域連携の推進』

行政区域にこだわらない観光客視点に立ち、エリアを越えた一体的な推進体制を構築することにより、観光スポットの核となる「鳥海山」の認知度向上を図る。

【事業推進のための関連事業】

- ◆由利地域観光推進機構事業
 - ・由利地域観光推進機構と連携し、メディアによる情報発信やエージェント訪問を実施
 - ・誘客促進のためのツアーの造成を行う(スポーツ・酒蔵・トレッキング分科会)
 - ・首都圏からの誘客促進、首都圏への特産品等の売り込み体制強化(協働プロモーション)
- ◆秋田、山形県際間連携推進協議会事業
 - ・山形県庄内総合支庁と連携し、環鳥海による広域連携の実施
- ◆鳥海国定公園観光開発協議会事業
 - ・にかほ市及び山形県酒田市、遊佐町と連携し、鳥海山観光開発事業の実施
 - ・点検登山の実施
- ◆環鳥海地域連携事業
 - 山、川、海といった環鳥海の自然を活かし、行政の垣根を越えた連携イベント「SEA TO SUMMIT(シー・トゥ・サミット)」の開催支援
- ◆ジオパークの形成と活用
 - にかほ市及び山形県酒田市、遊佐町と協働による「鳥海山・飛島ジオパーク」の形成と活用



古えから続く、鳥海山信仰



5-1 計画の推進体制

由利本荘市観光振興計画を着実に推進するためには、市民、観光関連事業者、行政が相互の連携を強化していくとともに、それぞれが責任を持って役割を果たしていく必要があります。

●市民の役割

市民一人ひとりが由利本荘市を「観光のまち」として認識し、観光のまちづくり活動に積極的に参加しながら、市民全体で由利本荘市の魅力を向上させるために取り組んでいきます。

自分たちの住んでいる地域の自然、歴史、文化などに対する理解を深め、地域への愛着と誇りを持つとともに、観光客を温かく迎えられよう、おもてなし力の向上を図ります。

●観光関連事業者の役割

自らの企画力や接客・接遇の質を高めるとともに、観光客に対するおもてなしの心を持った人材の確保・育成を進め、良質なサービスの提供を行います。

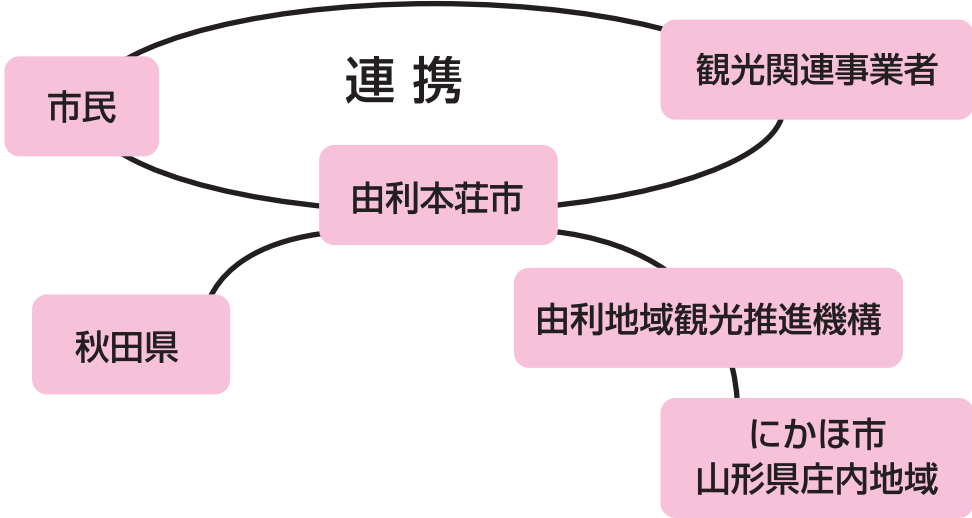
他産業や観光関連事業者間の連携を強化し、新たな魅力の創出や新たな観光需用への対応に努めます。

●由利本荘市の役割

観光振興計画に基づき、総合的な施策の展開や分析を行い、魅力的な観光地づくりを推進します。

市民や観光関連事業者の自主的な取り組みを支援するとともに、それぞれの意見を取りまとめ、国や県への要望や提案を行います。

幅広い情報の収集と発信に努め、市域を越えた広域観光を推進します。
効率的な情報発信・観光客の受け入れ態勢整備のために、マップやパンフレットの情報発信媒体の作成や案内看板の整備などに取り組んで行きます。



5-2 テーマ別施策の推進プログラム

施策ごとの実施時期を定め、施策の適正な執行と計画期間内の事業完成をめざします。

項目	事業	実施時期		
		前期	中期	後期
Ⅰ. 観光スポットの 魅力の向上	おもてなし観光推進モデル事業	○		
	歴史まちなみ案内看板整備事業	○		
	桑ノ木台湿原環境整備事業	○		
Ⅱ. 観光拠点施設の整備と 統一的な観光情報の発信	観光誘客促進事業	○	○	○
	鳥海山観光魅力アップ事業	○		
	天空カフェ建設事業	○		
	市道局部改良事業		○	
Ⅲ. 由利高原鉄道の活用と 二次アクセスの構築	鳥海山麓二次アクセス確立事業	○		
Ⅳ. 体験型メニューの創出	伝統工芸品作成後継者育成事業	○	○	○
	由利地域観光推進機構事業	○	○	○
Ⅴ. 食、農、観が一体となった 取組の強化	まるごと売り込み事業	○	○	○
	特産品開発支援事業	○		
	食農観ビジネス等推進重点支援地域形成事業	○		
Ⅵ. 環鳥海としての広域連携の 推進	由利地域観光推進機構事業	○	○	○
	秋田・山形県際間連携推進協議会事業	○	○	○
	鳥海国定公園観光開発協議会事業	○	○	○

5-3 総合計画に基づく施設整備等の事業計画

由利本荘市総合計画・新創造ビジョンでは、本市の観光振興の目指す姿を「通過型観光から滞在型観光への転換」とし、その実現に向けて次の事業を計画しています。

(1) 由利本荘市総合計画に基づいて展開する事業

①あきた未来づくりプロジェクト推進事業
県並びに、にかほ市と協働で行う「鳥海山を核とした広域観光振興プロジェクト」であり、観光地としての「鳥海エリア」を一体的に整備し、交流人口を創出することによって、地域の産業と経済の活性化を図ります。
②訪日観光誘客促進事業
トップセールス(台湾・韓国・タイ)をはじめ、友好交流都市である中国無錫市などからの訪日観光誘客を促進し、アジアからの交流人口を創出することで地域の産業と経済の活性化を図ります。
③特産品等販売促進事業
特産品の開発と磨き上げを行いながら、首都圏・仙台圏でのPRにより、販路を拡大することによって、収益性の高い産業構造の構築を促進します。
④天鷲郷施設整備事業
天鷲郷(天鷲村・亀田城・天鷲ワイン城)や亀田地区の街並みを、岩城氏・亀田藩二万石の「歴史・伝統・文化」を今に伝える史跡保存伝承の里として、旧城下町に由来した特色ある観光資源として活用します。
⑤観光案内看板整備事業
自家用車等で本市を訪れる観光客が、ひとりでも安心して目的とする観光スポットへ円滑に移動できるように観光案内看板を整備し、観光客の利便性の向上と本市での観光のイメージアップを図ります。
⑥八塩いこいの森パークゴルフ場整備事業
現在、4コース(各9ホール)整備されているが、更に2コース(各9ホール)を整備し、日常の利用を促進するとともに、併せて大規模な大会の誘致などにより、交流人口の拡大を図ります。
⑦休養宿泊施設「鳥海荘」大規模改修事業
鳥海山を核とした観光振興の拠点の一つである鳥海荘を整備し、登山やトレッキングをはじめとする滞在型の観光施設として機能拡充を図ります。
⑧道の駅「岩城」関連施設整備事業
秋田市以北からの「鳥海エリア」へのゲートウェイとして役割を担う道の駅として、温泉やオートキャンプ場、直売施設が整備されており、本市の観光拠点として欠くことの出来ない施設であるため、施設の機能拡充に務めます。

⑨はーとぽーと大内関連施設整備事業
道の駅「おおうち」とJR羽後岩谷駅に隣接したエリアに、温泉宿泊施設や直売所、グランドゴルフ場などの施設を有しており、観光振興を図るうえで拠点となる施設であるため、施設の機能拡充に努めます。
⑩青少年旅行村整備事業
鳥海高原の観光拠点である南由利原青少年旅行村は、広域連携による観光を推進するための中核施設であり、「やまゆり」は高原の駅に指定されているため、施設を更新し、県内外からこれまで以上の誘客を図ります。
⑪道の駅「にしめ」整備事業
オープンから20年以上が経過し、老朽化が著しいため、施設をリニューアルし誘客を図ります。
⑫スキー場改修整備事業
「鳥海高原矢島スキー場」は、鳥海高原の冬季観光レクリエーションの拠点施設として重要な役割を果たしているため、老朽化した施設の機能更新により、利用者の増加に努めます。
⑬黄桜温泉「湯楽里」維持補修事業
岩手県内陸方面からのゲートウェイを担っているが、平成7年にオープンした施設であり、老朽化が著しいため大規模な施設設備を行います。
⑭かしわ温泉整備事業
施設の整備を行い、サービス向上により利用者の増加を図ります。
⑮法体園地管理棟改修事業
「法体の滝」は日本の滝百選として観光客の多い景勝地であり、この法体園地にある管理棟を整備し、誘客を図ります。
⑯癒やしの空間リフレッシュの森整備事業
大小屋ファミリーランドには、キャンプ場、コテージ、森林公園を備えており、市外からの利用者も多いため、自然と親しむ癒やしの空間として整備し誘客の促進につなげます。
⑰ゆりの里交流センター大規模修繕事業
ゆりの里交流センター(ゆりえもん)の施設を整備し、施設の機能維持を図り、住民の憩いの場とし、更には市民交流の場として整備を行います。
⑱天鷲薬草公園整備事業
亀田地区には藩政時代、医学校「上池館」が開校されており、高度な医学教育が行われていた時代背景があり、自然の中で薬草を栽培しながら、近くの資料館では文化や歴史にふれあうことができる公園として整備します。

5-4 地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金に基づく事業計画

①趣旨

まち・ひと・しごと創生法(平成26年法律第136号)第8条の規定に基づき策定された、まち・ひと・しごと創生総合戦略(平成26年12月27日閣議決定)の中で、政府が地方の創生に向けて講ずるべき施策が示されており、地方版総合戦略の早期策定等への支援を行うため、地方への好循環拡大に向けた緊急経済対策として交付金が創設されました。

本市では、この交付金を活用し、特産品等の首都圏等での販路拡大と国内外の誘客促進を目的に次の事業を実施することにしました。

②事業内容

(1)地方創生先行型

「地方版総合戦略」の早期かつ有効な策定・実施を支援するものです。

◆まるごと売り込み事業

本市には、豊かな自然が育んだ多彩な農産物、加工品、民芸品があるが市外向け販売は少ないのが現状です。本市の魅力である自然環境や文化とともに、まるごと本市を売り込むため首都圏等での販路拡大を推進します。

(ア)まるごと売り込み事業

- ・特産品等の販路拡大を図るため、専門家アドバイザーを^{しょうへい}招聘し、事業者等による検討委員会において流通やブランド化について検討します。
- ・百貨店、スーパー等のバイヤー訪問や商談会、物産展等を開催し、販路拡大を図ります。
- ・首都圏での物産展等を開始するに当たり、スタートイベントとしてテレビ放送による首都圏でのPR事業を実施します。
- ・アンテナ居酒屋を活用し、特産品、観光PRを実施します。

(イ)まるごと売り込みモニターツアー事業

- ・販路拡大、本市の知名度向上を図るため、企業、バイヤーを対象にモニターツアーを実施します。

◆誘客促進事業

本市ではこれまでも訪日観光を促進してきましたが、秋田県との友好協会が設立され、新たな需要が望めるタイへのトップセールスを実施し、訪日観光を促進すると

もに、受入れ体制の強化を図ります。

また、国内での誘客促進のため、仙台圏をターゲットとした観光誘導の仕組み作りを行います。

(ア)観光トップセールス事業

- ・新たな需要が望めるタイへのトップセールスを実施します。

(イ)観光施設等無料公衆無線LAN設置事業

- ・外国人観光客の受入れ体制の強化のため、道の駅及び主要観光施設へ公衆無線LAN(Wi-Fi)を整備します。

(ウ)言語案内人育成事業

- ・外国人観光客の受入れ体制の強化のため、言語案内人の育成を行います。

(エ)おもてなし観光推進モデル事業

- ・日帰りで旅行できる地域で最大の人口を有する仙台圏住民をターゲットに観光誘導の仕組み作りを行うため、モニタリング調査及び観光案内人育成事業を実施します。

(2)地域消費喚起・生活支援型

地域における消費喚起やこれに直接効果を有する生活支援に関する事業の実施を支援するものです。

◆訪日観光旅行券事業

訪日旅行者の本市宿泊施設利用を促進するため、宿泊料の助成を実施します。

【要件等】

市内ホテル等に訪日旅行者が宿泊した場合、当該宿泊業者に対し、1人1泊当たり2,000円の助成を行う。

※当該宿泊事業者は、通常の宿泊価格から1人1泊当たり2,000円を差し引いた金額で利用者を宿泊させ、その減額分を宿泊事業者に対し市が助成するものとする。

※在外日本人の宿泊についても助成対象とする。

◆スポーツツーリズム旅行券事業

スポーツツーリズムによって本市の宿泊施設の利用を促進するため、宿泊料の助成を実施します。

【要件等】

市内及び隣接市町村で開催されるスポーツ大会や合宿への参加を目的として、市内の宿泊施設に宿泊した場合、1人1泊当たり1,000円の助成を行う。

※当該宿泊事業者は、通常の宿泊価格から1人1泊当たり1,000円を差し引いた金額で利用者を宿泊させ、その減額分を宿泊事業者に対し市が助成するものとする。

※チームの指導者のほか、選手に同行した家族並びに運転手などの宿泊についても助成対象とする。

計画策定の経緯

1. 策定までの流れ、関連会議の開催等 開催回数:200回=

由利本荘市新観光戦略計画 (あきた未来づくりプロジェクト等)	関連会議	庁内会議 (議会説明等)	事業等
平成25年度			
4/3 由利高原鉄道バス事業検討会	JTB秋田支店との観光協議		誘客事業打合せ：アイリス
12 未来づくりプログラム 県事業説明会	17 観光協会本荘支部総会(説明)		文化de元気実行委員会総会
15 交通二次アクセス事業検討会(由利鉄)	市観光協会役員会(未来プロ説明)		
17 交通二次アクセス事業協議(副市長)	5/7 市観光協会総会(観光の方向性説明)		おもてなしフォーラム打合せ
30 交通二次アクセス事業協議(副市長)	16 観光振興計画策定のための現地調査	商工観光部担当課長会議	
5/1 由利高原鉄道バス事業検討会	17 セク担当課会議(観光施設の方向性)		
24 第2回未来プロカンファレンス(振興局)	22 鳥海山案内人の会役員会(桑ノ木台湿原)	国交省本荘国道維持出張所	菜の花まつり開催
6/24 スポーツツーリズム検討会議	5/30 桑ノ木台湿原に関する協議	28 観光振興・未来プロ庁内会議	おもてなしクリーンアップ(DC)
27 県自然保護課との協議(蔵川地区整備)	31 鳥海山案内人の会総会(桑ノ木台湿原)	産業経済常任委員会説明	6/5 おもてなしフォーラム打合せ
7/1 振興局との計画協議	6/4 ワンデー・ワンコイントアー試乗会	産業経済常任委員会提出	
6 観光振興関係課長会議	ワンデー・ワンコイントアー(6・7月開催)	6/5 委員会現地調査(ツアー)	桑ノ木台湿原シャトルバス運行
11 天空カフェ建設関連打合せ	振興会議(市長・振興局長)		
12 計画案策説明・市総合計画案策提出	10 商工会との協議(観光振興について)	18 体験ツアー創出打合せ	西滝沢水辺プラザ石窯導入
24 未来プロ予算協議(副市長・財政課)	14 商工会との協議(観光振興について)	(来場者アンケート実施)	桑ノ木台湿原現地調査(県立大)
30 県観光文化スポーツ部長等現地視察	25 森林管理署協議(桑ノ木台湿原施設整備)	25 観光振興関係課長会議	
	観光協会物産部役員会(特産品開発等)	26 矢島総合支所との検討会(花立・蔵川整備計画)	
	観光協会物産部役員会(特産品開発等)		訪日観光モニター委嘱(韓国・中国)
	27 AKT観光PR計画(フォレストア鳥海)	7/6 花立施設・観光道路(調査)	7/1 第1回英語村(ユースパーク活用)
	文化de元気実行委員会(文化を活用した観光)		
	7/3 訪日観光計画打合せ(アドバイザー)		
	9 鳥海山を核とした観光振興を語る会(市議会)		仙台圏モニターツアーコース調査
	10 西目PA活用検討会(観光施設活用)		
	11 県自然保護課協議(蔵川山荘改築協議)		22 仙台圏モニターツアー(アンケート)
	17 観光協会物産部会(特産品開発等)		28 Mt.鳥海バイシクルクラシック
	18 県観光戦略課協議(蔵川山荘改築協議)		31 東アジア観光セミナー(県主催)
	県観光戦略課協議(蔵川山荘改築協議)		
	23 国有林野要望(副市長)鳥海山関連整備		
8/9 計画案策提出・説明	(花立・蔵川・桑ノ木台湿原等)	8/8 観光振興関係課長会議	8/11 西目PAイベント
12 蔵川山荘現地調査(県建担当)	21 自然保護課協議(蔵川山荘・旭荘)		18-22 トップセールス(台湾)
19 第3回未来プロカンファレンス	9/4 市観光協会企画宣伝部会(PR計画)	22 農林・商工担当部課長会議	
	10 鈴木郁夫氏との観光振興打合せ		9/11~14 無錫市訪問団
17 桑ノ木台湿原(NTT電波調査)携帯事業	県重点エリア観光再構築ワークショップ		
9/29 地元県議会議員へ事前説明(三浦議員)	9/27 観光振興計画策定のための事前打合せ	9/19 常任委員会(事業説明)	
10/2 地元県議会議員へ事前説明(小田議員)	28 ジオパーク意見交換会(象潟庁舎)	26 未来づくりプロ庁内会議	財政、予算計画協議
3 未来プロ案策関係調書提出(県議会用)	10/22 重点エリア(スポーツ分代会)	28 おもてなし講習会(鈴木氏)	本荘駅前おもてなしクリーンアップ(DC)
4 未来プロ等 村岡観光協会会長への説明	25 6次産業化促進支援事業審査会(特産品)	10/7 おもてなし事業関連(鈴木氏)	
15 県企画振興部長現地視察	29 DC負担全説明会(観光誘客事業)	観光誘客促進事業(大会等誘致)	12-13 全国風揚げ大会(札幌)
18 地域活力創造課協議	31 由利地域観光推進機構協議		
	11/4 森林管理署協議(桑ノ木台湿原整備)		11/5 台湾ブロガー訪日対応・PR
29 観光文化スポーツ部長 市長面談	12 県自然保護課協議(蔵川園地・旭荘)		水辺ブラザビザ案 講習会
11/12 リーグ理事講演(スポーツツーリズム)	13 桑ノ木台湿原保全管理協議会(事業説明)		
14 第3回未来プロカンファレンス(振興局)	市総合計画策定プロジェクト委員会		
20 未来プロアドバイザー検討会(キクスイ)	18 重点エリア(スポーツ分代会)		
28 地域企画課 協議	20 地域活力創造課協議	11/22 農林・商工担当部課長会議	22 宿泊得々キャンペーン抽選会
	29 地域活力創造課協議(蔵川山荘等)	文化de元気検討会(観光)	
12/9 地域活力創造課、観光戦略課提出	12/6 観光戦略課協議・推進機構協議	(広域観光について)	宿泊得々キャンペーン抽選会
13 振興局 広域事業県連計画協議	由利高原鉄道事業計画協議(バス事業)		H25、10~12月末
19 県議会説明	グリーンライン復旧計画協議(土砂崩落)	12/16 常任委員会	宿泊者アンケート調査実施
25 観光重点エリア会議	20 総合計画策定プロジェクト委員会		県立大学生による桑ノ木台湿原への入込み者アンケート実施
観光重点エリア会議	26 ANA(誘客促進関連)	文化事業打合せ(国庫)	
27 運輸秋田支局協議(バス事業確認)	蔵川山荘譲渡関連協議(県自然保護課)		
H26	振興局長との会議		
1/7 副市長との会議	1/8 第6次産業課事業審査委員会	1/23 定住自立圏資料提出	2/6 朴アドバイザーが市長訪問(韓国~)
1/15 未来プロ本部会議(秋田総合庁舎)	22 由利高原鉄道打合せ		7 課長研修(カダーレ)
20 未来プロプレゼン(県庁正庁)			
31 新創造ビジョン打合せ	30 振興局、由利高原鉄道打合せ	定住自立圏(広域2F)	13 文化de元気実行委員会
2/26 蔵川山荘設計図確認報告	2/14 観光協会本荘支部役員会		
	17 ジオパーク学習会議	3/3 商工観光部担当課長会議	3/6 スポーツ分科会
3/5 蔵川林道併用協定打合せ			10 トレッキング分科会

3/5 蔵川林道併用協定打合せ			10 トレッキング分科会
13 森林管理署併用林道打合せ		11 産業経済常任委員会	13 おもてなし講習会
19 未来プロ第4回カンファレンス	22 地域力創造アドバイザー事業	本会議	
	27 由利地域観光推進機構会議	4/8 市・市議会合同要望	4/4 訪日アドバイザー委嘱
4/16 未来プロカンファレンス	4/17 観光協会本荘支部役員・総会、山開き	議会全員協議会(シェールオイル)	16 食・農・観
	21 酒田市課長来庁(ジオパーク)		23 水辺プラザ(ビザ講習会)
		24 GW道の駅臨時観光案内打合	25 鳥海山山開き蔵川
5/8 由利高原鉄道打合せ(未来プロ)	5/12 スポーツコンソーシアム打合せ		4/28-5/3 台湾・韓国トップセールス
14 由利高原鉄道バス打合せ(未来プロ)	13 シェールオイル関連打合せ	22 県議会新みらい意見交換	16 フォレストア鳥海(春山スキー)
	15 由利地域観光推進機構会議	23 農林・商工観光部課長会議	19 鳥海山案内人の会役員会
21 未来プロカンファレンス	21 観光協会総会		26 振興局用地課マリナ協議
30 未来プロアドバイザー会議			29 鳥海山案内人の会
			6/4 ハム民の会打合せ
6/5 未来プロ花立耐震予算(支所)	庄内意見交換会、観光振興計画(策定計画案)		7/26-10/24まで ソウル便運休
27 未来プロカンファレンス	6/11 森林管理署(桑ノ木駐車場)		6/19 アンテナ居酒屋プレゼン
30 未来プロカンファレンス			30 商工会との懇談会
	7/1 ジオパーク学習会		食・農・観(中澤さかな氏)
7/11 未来プロ国交省との打合せ	8 羽後交通観光打合せ	7/14 ユースプラト-矢島打合	7/3 菜の花写真審査会
23 未来プロカンファレンス	22 観光振興計画打合せ	31 韓国交流事業打合せ	10 アンテナ居酒屋打合せ
8/4 未来プロ計画			11 風揚げ大会実行委員会
	8/5,11観光振興計画		19 マリナ海開き
20 未来プロカンファレンス	自然公園等の整備に関する検討会	8/22 産経委員会部課長会議	24 アンテナ居酒屋説明会
9/30 未来プロカンファレンス	25 高原の駅駅長会議	31 由利高原鉄道(著名人ツアー)	
			8/21 県庁・石油開発秋田鉱業所
			25 鳥海山案内人の会役員会
			26 新潟エージェンツ訪問
			29 台湾鉄道局長来庁
	9/18 総合計画策定プロジェクト		9/18 アンテナ居酒屋関連会議
			9/25,26 信州大学(ヘルスツーリズム)
			26 風実行委員会
			28 国文祭フットパス(本荘)
			アンテナ居酒屋店名決定
10/29 未来プロカンファレンス	10/29 桑ノ木台湿原保全管理協議会		10/5,6 えがった号表敬訪問
			6 アンテナ居酒屋調印式
			7 商工会との打合せ
			8 風実行委員会
			10 風観光ツアー実施
			12 全国たこあげ大会
			22-26 国際文化交流事業(韓国)
			27 真田丸活用プロジェクト
11/17 未来プロカンファレンス	桑ノ木台湿原保全管理協議会		11/7 うまいもの酒場オープン
			8,9 美術館由利本荘市フェア
12/15 新創造ビジョン登載事業に集中ヒアリング	11/23 観光振興計画(骨子案)		
18 未来プロ(鉄道資料)	25 観光振興会議	23 農林・商工観光部担当課長会議	
22 バス事業の創造ビジョン成果提出	26 観光振興計画(骨子案)		11/23 CM大賞審査会
22 県観光振興・交通政策課長来庁	12/3 観光振興計画(骨子2案)	12/9 議会委員会	
25 未来プロランニングコスト運営計画財政提出			
H27	H27 森林管理署(整備計画)来庁		案内人の会事業説明
2/2 未来プロ両副市長説明	2/3		2/3 観光デジタルコンテンツセミナー
	2/5 観光振興計画業者打合せ		
			地方創生(言語案内事業追加)
	2/10 第1回 観光振興計画策定委員会		
	2/25 第2回 観光振興計画策定委員会	2/2 商工観光部課長会議	
3/5 アドバイザー検討会(県立大嶋崎准教授)	※情報発信関連		
3/6 東北総合通信局協議(陸上課)携帯	東北総合通信局(携帯打合せ)		
3/9 由利高原鉄道 バス事業協議			
		3/10 産業経済常任委員会	
17 アドバイザー検討会(米田氏)情報発信	※情報関連(道の駅、高原の駅、HP)		
	3/20 第3回 観光振興計画策定委員会		
3/30 観光振興計画完成(納入)			

1. 全国的な観光の動向

①全国の宿泊者数

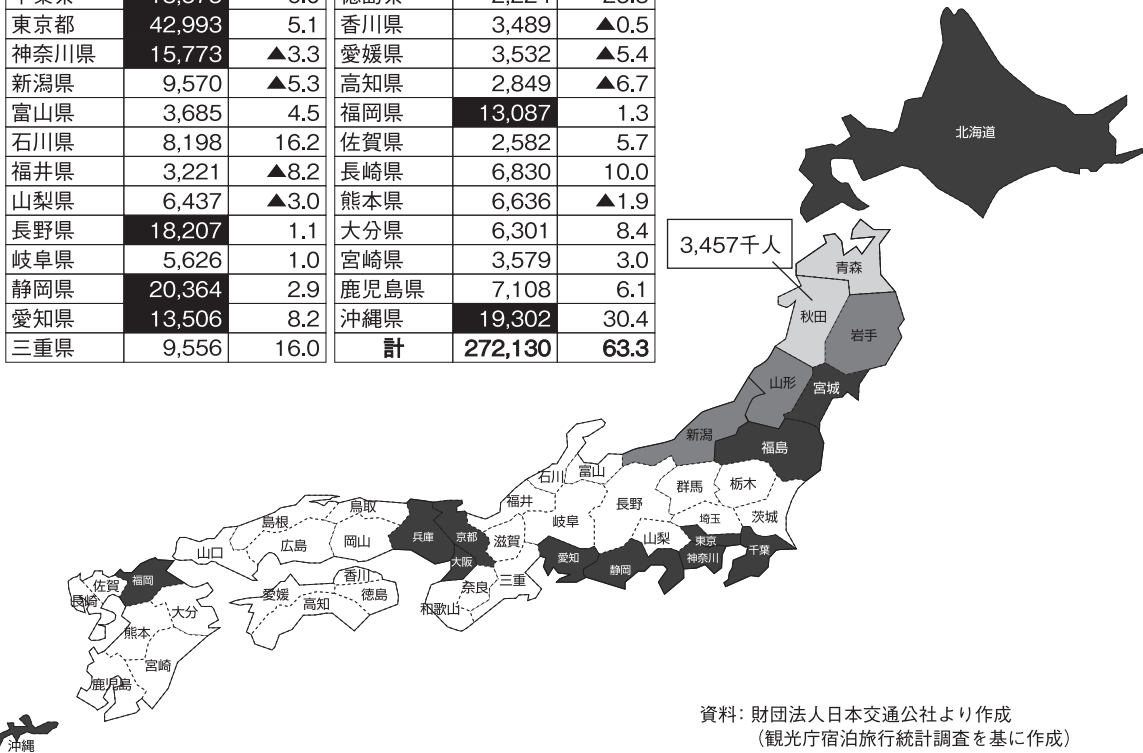
観光庁の調査による、平成25年(2013年)都道府県別の「日本人延べ宿泊者数」の合計を見ると、前年に比べ33都道府県で上回りました。20年に一度の伊勢神宮の「式年遷宮」と、60年に一度の出雲大社「本殿遷座祭」が同じ年に行われた他、『富士山―信仰の対象と芸術の源泉』がユネスコの世界文化遺産に登録された事で、関係県や近隣県の観光動員に大きく寄与したことが伺えます。また、東北地方では、観光産業に向け、各地のデスティネーションキャンペーンやNHK朝の連続テレビ小説の効果があつたほか、秋田県では、宿泊補助券のキャンペーンにより宿泊者数のプラスに貢献したと思われますが、宿泊者数の増減は県によって異なる結果となりました。

H25年宿泊数(千人泊)

県	宿泊数	前年比	県	宿泊数	前年比
北海道	27,901	5.0	滋賀県	3,943	▲3.9
青森県	4,697	4.3	京都府	17,462	25.3
岩手県	5,525	▲14.6	大阪府	19,567	▲3.5
宮城県	11,228	12.8	兵庫県	12,719	6.0
秋田県	3,457	0.7	奈良県	2,316	8.9
山形県	5,393	▲2.4	和歌山県	4,255	2.1
福島県	10,707	1.5	鳥取県	3,493	23.7
茨城県	5,066	1.2	島根県	3,255	24.8
栃木県	9,538	▲1.2	岡山県	5,131	11.8
群馬県	9,030	8.6	広島県	7,577	▲3.1
埼玉県	3,877	6.2	山口県	4,333	2.1
千葉県	18,575	6.0	徳島県	2,224	25.3
東京都	42,993	5.1	香川県	3,489	▲0.5
神奈川県	15,773	▲3.3	愛媛県	3,532	▲5.4
新潟県	9,570	▲5.3	高知県	2,849	▲6.7
富山県	3,685	4.5	福岡県	13,037	1.3
石川県	8,198	16.2	佐賀県	2,582	5.7
福井県	3,221	▲8.2	長崎県	6,830	10.0
山梨県	6,437	▲3.0	熊本県	6,636	▲1.9
長野県	18,207	1.1	大分県	6,301	8.4
岐阜県	5,626	1.0	宮崎県	3,579	3.0
静岡県	20,364	2.9	鹿児島県	7,108	6.1
愛知県	13,506	8.2	沖縄県	19,302	30.4
三重県	9,556	16.0	計	272,130	63.3

東北6県・新潟及び
年間10,000千人以上の都道府県

年間10,000千人以上
年間 5,000千人以上
年間 3,000千人以上



資料：財団法人日本交通公社より作成
(観光庁宿泊旅行統計調査を基に作成)
※外国人延べ宿泊数を除く

②旅行動向の変化

・高齢者人口の増大

超高齢社会に突入した我が国において、65 歳以上の高齢者人口の割合(高齢化率)は平成27年現在26.3%となり、世界最高水準の高齢化率となっています。秋田県においては平成25年現在31.6%と全国的に最も高い割合となっています。「内閣府:高齢化の現状より」
このような「成熟社会」が進む中で、マーケットセグメント別の旅行内容では、その地域の文化歴史に触れる事や自然を楽しみたいことが共通しています。一方、「ひとり旅」では目的が分散しており、趣味趣向に合わせた旅行を楽しみにしています。

マーケットセグメント(同行×ライフステージ)別の旅行で楽しみにしている事 (%)

	自然	文化歴史 文化施設 (体験含む)	アウトドア	温泉	美味しいものを 食べる	買い物	イベント	その他
家族旅行	17.2	29.3	5.2	17.3	13.3	2.1	2.3	13.3
夫婦カップル	19.7	24.9	3.1	19.3	13.5	2.2	2.8	14.5
友人旅行	16.7	22.7	10.4	17.6	13.8	2.2	4.3	12.3
男性一人旅	16.8	23.9	7.9	5.0	9.7	2.3	6.3	28.3
女性一人旅	10.8	25.0	4.3	3.9	8.0	4.9	9.2	33.7

資料：(公財)日本交通公社 旅行年報 2014より作成

宿泊旅行の同行者調査から、趣味趣向を自由に楽しむ一人旅が連続増加。夫婦旅行については横ばいながら高い割合になっています。

宿泊旅行の同行形態 (%)

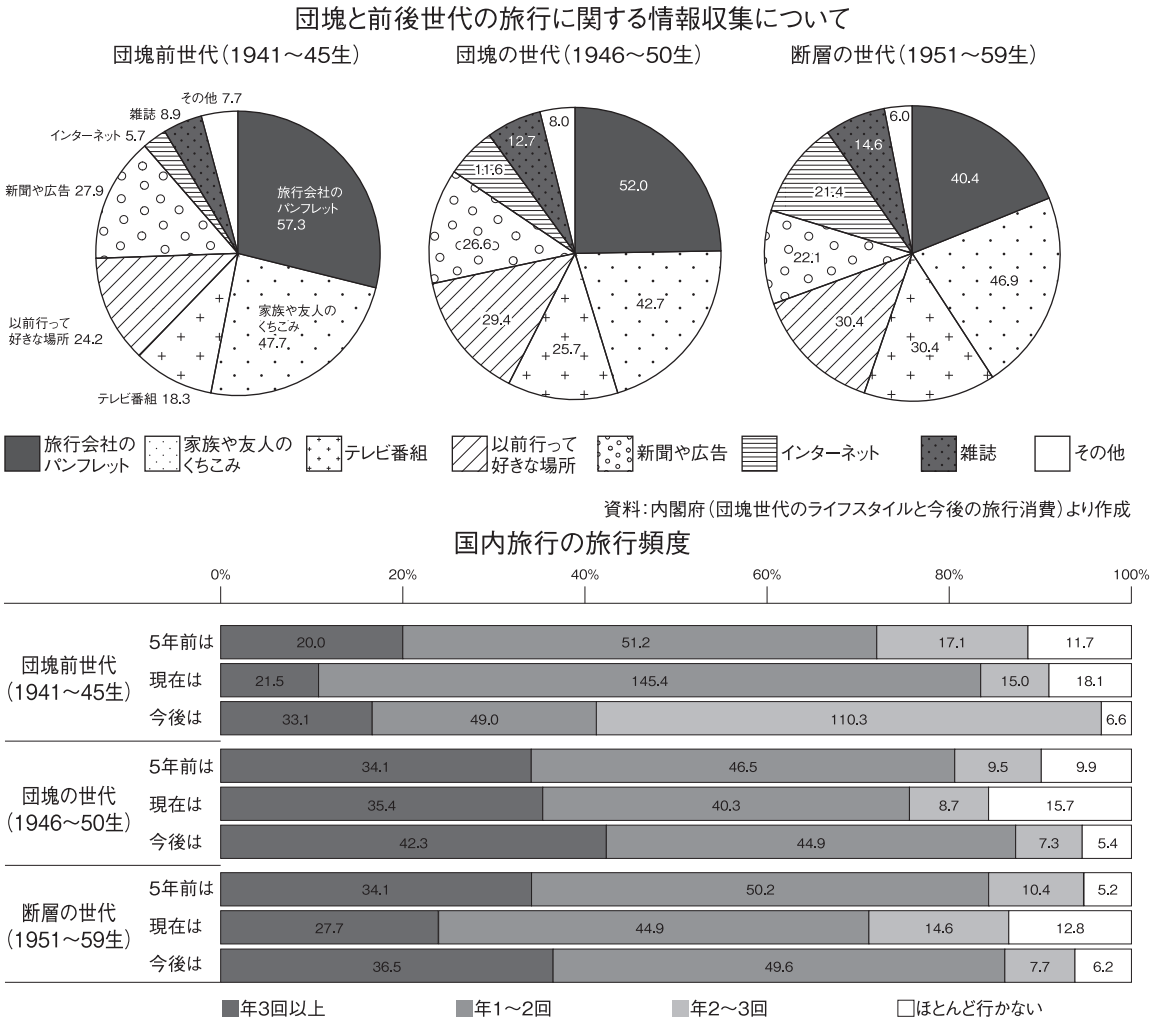
	H18年	H19年	H20年	H21年	H22年	H23年	H24年	H25年
一人旅	11.2	12.0	12.5	12.9	13.1	14.1	14.5	15.4
恋人との旅行	7.7	7.3	7.4	7.4	7.2	7.4	7.2	7.0
夫婦旅行	24.0	23.8	24.2	24.2	24.4	24.5	24.1	24.8
小学生以下の子連れ旅行	12.8	12.4	12.0	12.4	12.8	12.6	12.7	11.7
中学生以下の子連れ旅行	3.5	3.7	3.6	3.7	3.9	4.0	4.3	4.3
親連れ旅行	7.1	7.2	7.6	7.7	7.8	8.0	7.9	8.4
その他家族旅行	9.5	9.3	9.3	9.3	9.0	8.8	9.2	9.1
友人との旅行	16.4	15.9	15.3	15.2	15.3	14.2	13.8	13.8
職場サークルなどの団体旅行	5.7	6.1	5.8	5.2	4.7	4.5	4.5	3.8
その他	2.2	2.3	2.3	2.0	1.8	1.9	1.8	1.7

資料：リクルート宿泊調査 2014より作成

③団塊の世代の余暇ニーズへの対応

これまで社会の様々な分野の第一線で活躍してきた方々が、平成24年(2012年)以降、高学歴化、サラリーマン化、都市化といった戦後の変化の象徴であり、消費文化の中で育った、いわゆる「団塊の世代」が65歳に達し始め、余暇時間が比較的多いと考えられる高齢者層の割合が増えることから、第3次産業の中でも、特にレジャーや余暇活動は、ますます重要とされていますが、旅行需要は想定ほど伸びていません。その一因として、趣味レジャーの多様化が考えられ、旅行の魅力を高めることが重要と思われます。

団塊世代の意識調査によると、今後5年くらいの間に、お金をかけたいことは、「旅行」の70.3%と「健康」の42.3%となっており、セカンドライフを健康で楽しく過ごしたいという意識が高く伺えます。また、旅行についての情報収集は、「旅行会社のパンフレットを見て」が52.0%と多く、ついでくちこみが参考となっていることが分かります。また、国内旅行の頻度については、現在年3回以上が35.4%ですが、今後は年3回以上行きたいと考えている人は42.3%と増えていることが分かります。

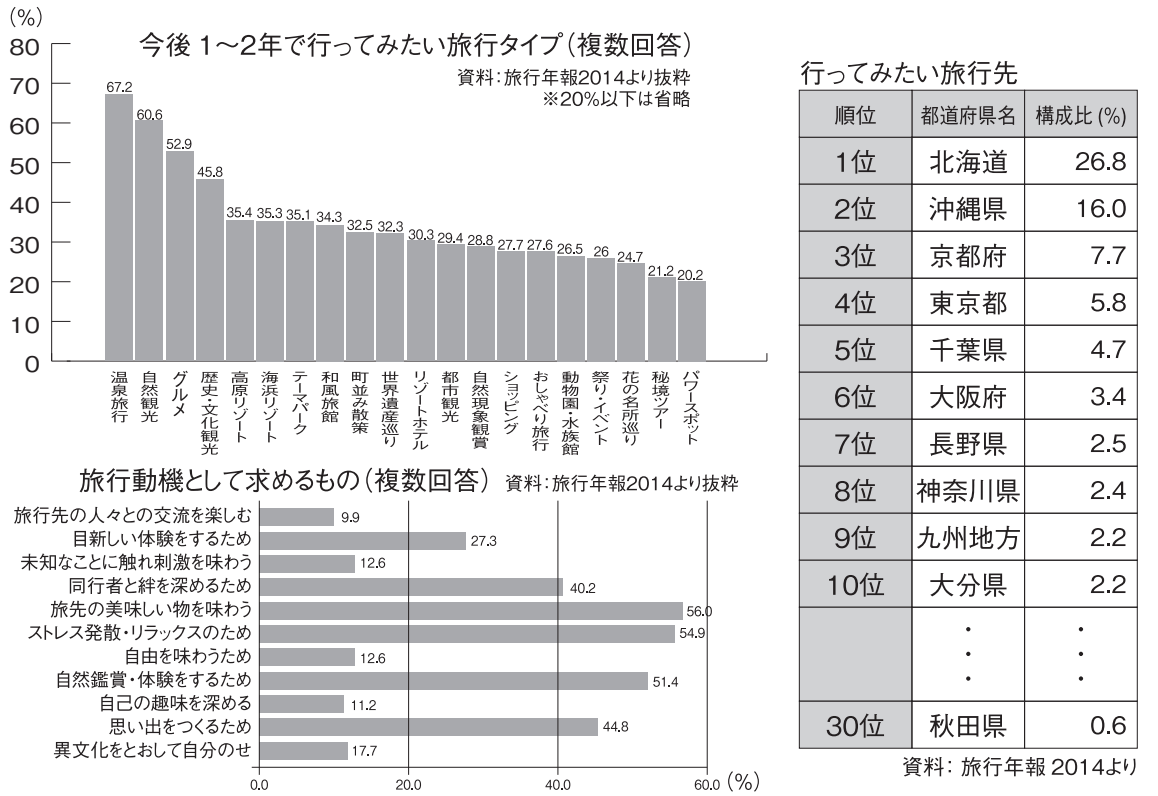


資料：JTB総合研究所

④行ってみたい旅行タイプ

平成25年(2013年)の勤労者一世帯当たりの実収入及び家計消費支出は2年連続でプラスとなり、また、消費者物価指数もプラスに転じるなど、景気回復に伴い、旅行関連も2年続けて増加している中、今後1～2年の間に行ってみたい旅行のタイプは、「温泉旅行」が67.2%、次いで「自然観光」「グルメ」と続いています。また、行ってみたい旅行先の1位は北海道、2位は沖縄と続き、秋田は30位という結果でした。

性別、年代別では、男性は世代を問わず「温泉」「自然観光」「歴史文化観光」と上位を占めていますが、30代は幼児を含む家族旅行が多いと推測され、3位にテーマパークが選ばれています。一方女性は20～30代には「グルメ」「温泉旅行」と続き、40～70代は順位が入れ替わっていることから、情報を取得しアクティブな旅行と癒しの旅行を求める相違が多少表れているように伺えます。



性・年代別行ってみたいベスト3(複数回答)

		(%)											
男子		20代	30代	40代	50代	60代	70代						
1位	温泉旅行	59.2	温泉旅行	73.3	温泉旅行	73.3	温泉旅行	78.0	温泉旅行	67.6	温泉旅行	62.3	
2位	自然観光	51.3	自然観光	61.4	自然観光	57.1	自然観光	70.3	自然観光	63.0	自然観光	53.2	
3位	歴史・文化観光	46.1	テーマパーク	55.4	歴史・文化観光	50.5	歴史・文化観光	53.8	歴史・文化観光	53.7	歴史・文化観光	39.0	

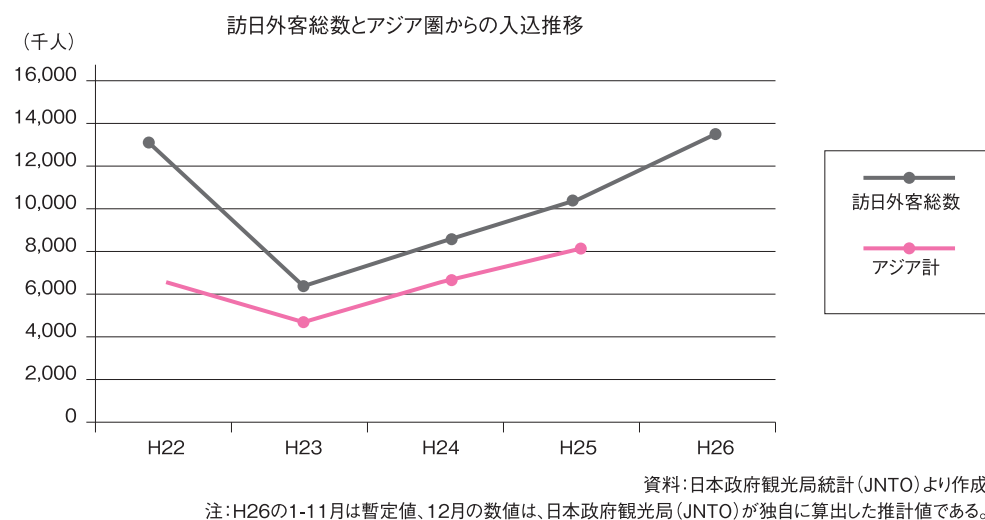
(%)

女子		20代	30代	40代	50代	60代	70代						
1位	グルメ	77.3	グルメ	70.1	自然観光	71.4	自然観光	66.7	自然観光	65.2	温泉旅行	65.9	
2位	温泉旅行	74.7	温泉旅行	68.0	温泉旅行	70.5	温泉旅行	64.4	温泉旅行	62.6	自然観光	54.5	
3位	テーマパーク	68.0	テーマパーク	67.0	グルメ	67.6	グルメ	58.9	グルメ	53.0	グルメ	43.2	

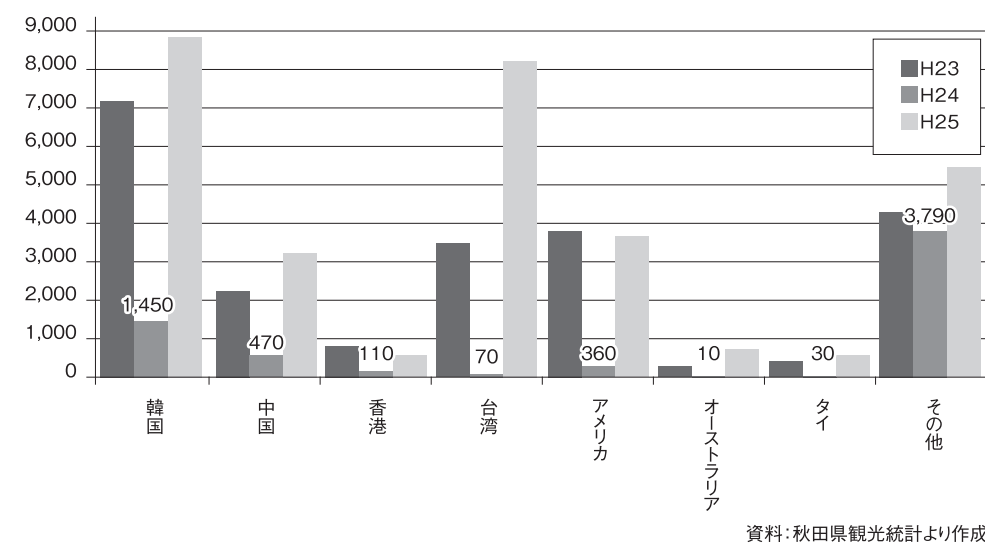
資料：旅行年報 2014より抜粋

⑤訪日客数（インバウンド型旅行）の増加

日本政府観光局(JNTO)によると、平成26年の訪日外客数は前年比の29.4%増の1,341万人となり、過去最高となり外国人旅行者の急増を反映しています。その中でもアジアからの外国人客総数はヨーロッパの約2倍を占めており、韓国・中国・台湾からが圧倒的に多くなっています。主な要因は、ビザの大幅緩和や消費税免税制度拡充のほか、アジア地域の経済成長に伴う海外旅行需要拡大、円安進行による訪日旅行の割安感の浸透などが、平成26年の訪日外客数の拡大に寄与したものと考えられます。また、同年6月に財務省が公表した国際収支では、4月の旅行収支が昭和44年7月以来黒字となり、旅行収支の年間黒字化も将来現実味を帯びてきています。



秋田県の観光統計によると、これまで圧倒的にアジアからの訪日客が多かったが、今後、平成32年(2020年)に東京オリンピックが開催されることから、積極的なプロモーションにより、他国からの集客も期待できるのではと考えられます。



2. 東北・秋田県の観光の動向

①東北地方在住者の東北内での旅行動向と、東北を訪れた人の居住地

東北地方在住者の東北内での旅行先は、複数回答で「岩手県」が53.3%と最も多く、次いで、「宮城県」が49.0%、「秋田県」が45.0%と上位を占めています。東北地方を訪れた旅行者の地域別の割合では、関東地方が最も多く、東北6県の全てで3割以上と多く、特に関東地方に隣接する「福島県」では6割以上を占めています。

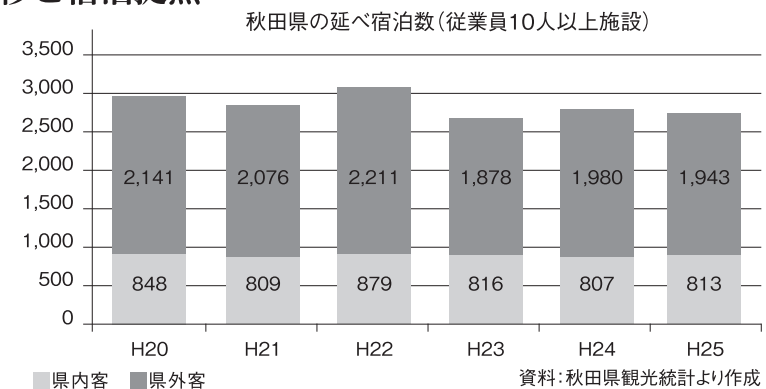
旅行先(東北6件)旅行者居住地シェア (%)

旅行先	居住地	北海道	東北	関東	甲信越	東海	北陸	近畿	中国	四国	九州・沖縄
青森県		2.1	36.3	38.7	4.2	4.3	1.5	9.1	1.1	1.3	1.4
岩手県		1.3	53.3	32.1	3.1	2.5	0.0	4.1	1.5	1.0	1.1
宮城県		1.0	49.0	33.5	2.9	4.1	1.7	4.5	1.3	0.1	1.8
秋田県		2.9	45.0	34.7	3.8	4.1	0.4	5.2	0.9	0.0	2.9
山形県		1.6	34.1	45.6	6.9	4.9	0.8	3.2	1.1	0.8	1.1
福島県		1.4	22.2	63.0	7.0	2.2	0.9	2.3	0.1	0.1	0.8

資料：旅行社動向 2011

②秋田県の宿泊者推移と宿泊拠点

三方を山に囲まれた秋田県は、豊かな自然に加え、独自の伝統文化や祭り、食文化が息づいています。しかし、県内の主要観光地は秋田市、男鹿半島、田沢湖、角館の中央部と十和田湖、八幡平の県北地域に偏在していました。平成23年の震災以来多少の回復は見えるものの、震災前の宿泊数までには至っていないことが分かります。また、宿泊拠点別については秋田市、仙北市が圧倒的に多くっており、平成24年度における本市の延べ宿泊数は秋田県全体の5.3%にとどまっています。



③観光流動

秋田新幹線を利用する場合、沿線である田沢湖～角館～秋田の太い流れが形成されており、ここから北へ八幡平～十和田に至るルート、秋田～男鹿ルートに多く観光客が流れています。本市では観光客の多くは、秋田～本荘～象潟～酒田の日本海ルートと、仙台圏から湯沢経由ならびに横手を経由してくるルートが多くなっています。また近年、飛行機や新幹線を利用した形で首都圏からの観光客が増加しています。

入込客数が最も多い月は、各地で夏祭りや花火大会等の行祭事・イベントが開催される8月(約785万人)で全体の24.4%を占めています。一方、12月から4月までの冬期間は落ち込む傾向にあります。

④衰退する温泉観光地

調査では、温泉観光へのニーズは依然として多いが、現実にはここ10年間で全国の旅館の軒数の伸び率は27.3%減少しており、その背景には台風や震災などの災害や、大型多目的施設の進出による影響を受けた形で、温泉観光地の低迷ぶりが伺えます。

観光地を取り巻く市場環境が大きく変化しているなか、平成26年7月～9月の北海道・東北における旅館稼働率を見てみると、北海道が全国1位、秋田県は全国16位となっています。宿泊タイプ別での稼働率を見ると、東北6県とも旅館の稼働率が低いことから、経営環境が依然厳しい状況であることが伺えます。

全国旅館・ホテルの軒数の推移

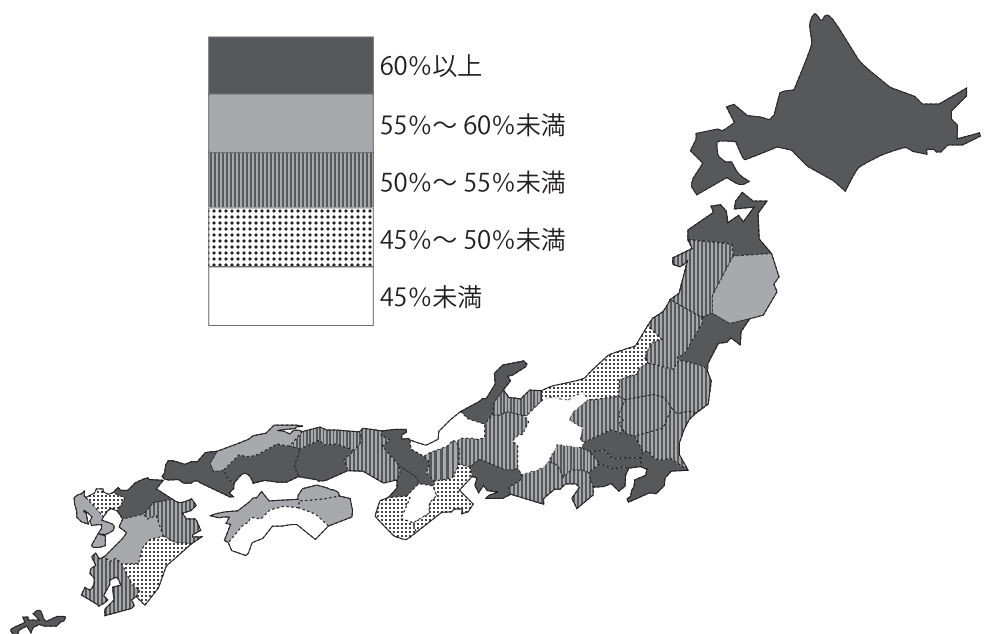
	平成14年	平成24年	増減	伸び率(%)
旅館	61,583	44,744	▲16,839	▲27.3
ホテル	8,518	9,796	1,278	15.0

資料：旅行年報をもとに作成

宿泊施設タイプ別稼働率・都道府県順位(％・位)(H26年7月～9月)

	旅館		リゾートホテル		ビジネスホテル		シティーホテル	
北海道	59.7	1	62.7	13	81.1	6	84.5	2
青森県	48.3	6	57.0	23	71.9	25	66.2	34
岩手県	44.8	13	45.4	40	76.4	13	70.5	26
宮城県	44.0	15	47.8	36	81.3	5	77.0	16
秋田県	43.9	16	54.8	26	68.2	34	70.9	14
山形県	37.4	30	49.2	34	73.2	21	71.6	23
福島県	35.8	33	50.9	32	80.7	7	80.6	9

資料：H26観光庁「宿泊旅行統計調査」をもとに作成



⑤県内観光入込

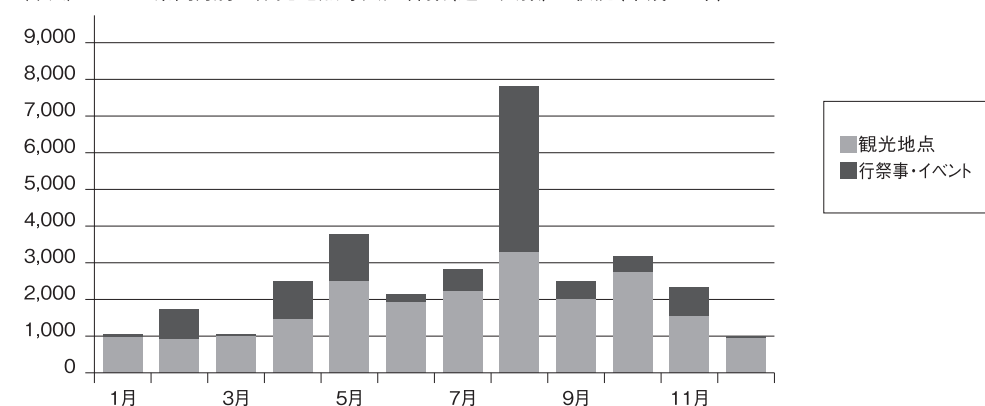
平成18年から平成22年までの入込客数平均4,500万人に対し、平成23年は3月11日の東日本大震災により約2,900万人と激減し、大きな風評被害が伺えます。しかし、平成25年秋田新幹線の新車両運行や秋田デスティネーションキャンペーン、国民文化祭により誘客はあったものの、残念ながら震災前の状況までは回復していないのが現状です。

県内観光地点別入込客数(平成25年)

地区名	入込客数(人)	構成比(%)
鹿角	2,675,054	8.3%
大館・北秋	2,136,838	6.6%
能代・山本	2,165,795	6.7%
男鹿・南秋	2,671,679	8.3%
秋田	5,702,116	17.7%
由利本荘・にかほ	3,546,467	11.0%
大仙・仙北	7,584,035	23.6%
横手・平鹿	4,145,754	12.9%
湯沢・雄勝	1,505,787	4.7%
秋田県	32,133,525	100.0%

資料：秋田県観光統計より作成

県内月別の観光地点等入込客数(延べ人数)の状況(平成25年)

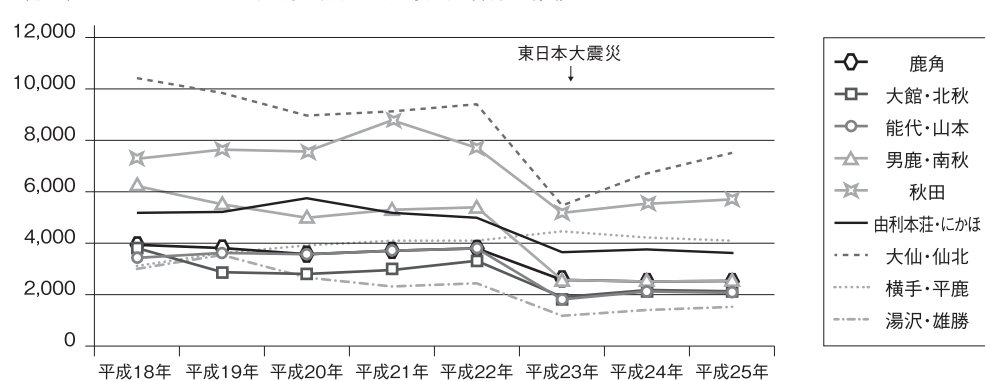


資料：秋田県観光統計

⑥秋田県内観光入込の推移

平成25年秋田県の観光統計によると、秋田県の年間入込客数は前年比1.2%増の32,133千人となり、そのうち延べ宿泊数は前年比0.9%増の約3,490千人で、東日本大震災の影響で激減した平成23年以降、ゆるやかな回復基調にあります。

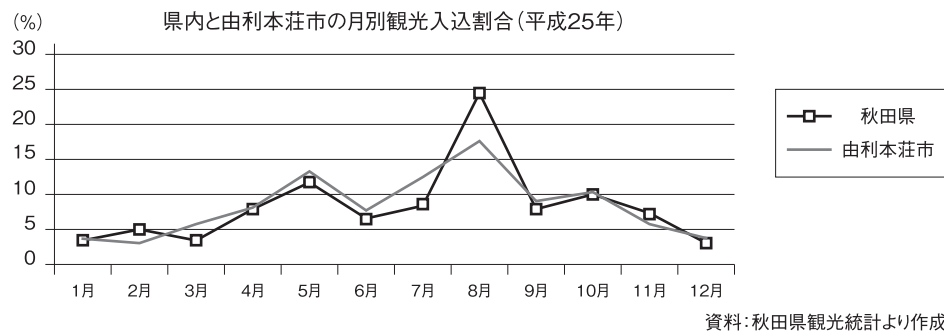
地区別の観光地点等入込客数の推移



資料：秋田県観光統計より作成

3. 由利本荘市の観光の現状

本市の季節別観光入込客数も例年、全体の3分の1が夏季(7～8月)に集中する「夏季集中型」となっています。



さらに地域別でも、季節により観光入込客数の変動が違ふことから、地域・季節での需要の創出が一つのキーワードになります。この点、スキー、スノーボードなどのスノースポーツや雪上車乗車体験などは、外国人の関心も高く、また、雪を活用した地域資源の磨き上げにも資するものであり、国内外の旅行者がともに減少する冬期の観光振興に大きく貢献すると考えられます。

そうした中、本市の第三セクター(観光施設)の経営状況は平成20年と平成24年を比べても約7分の1の減収となっています。総務省の調べによると全国的に黒字法人が減少しており、平成22年には749法人だったのが、平成25年には562法人となっています。その背景には、自然災害の影響や観光誘客における地域差、充実した民間施設との競合など様々な理由が伺えることから、本市においてもオフシーズンの稼働率の向上策や、マスコミへの積極的な露出、市と連携したモニターツアーなどによる改善策が必要と思われる。

秋田県と由利本荘市(管内)の月別観光入込客数 (%)				
	春(4～6月)	夏(7～8月)	秋(9～11月)	冬(12～3月)
秋田県	26.4	33.0	25.3	15.3
由利本荘市	29.0	30.0	25.1	15.9
本荘	23.4	27.0	24.7	24.9
矢島	12.1	28.1	32.3	27.6
岩城	29.1	27.9	24.7	18.3
由利	37.9	36.2	26.0	0.0
大内	25.4	17.1	23.6	33.9
東由利	42.4	16.9	22.1	18.6
西目	32.0	29.7	21.1	17.2
鳥海	26.7	18.0	34.1	21.3

資料: 由利管内における観光統計、秋田県観光統計より作成

由利本荘市第三セクター施設別純利益金 (単位: 円)		
	H20	H24
(株)鳥海高原ユースパーク	▲4,398,289	▲4,926,338
(株)史跡保存伝承の里天鷲村	▲4,005,307	316,245
岩城アイランドパーク(株)	19,877,942	891,433
(株)大内町交流センター	688,980	▲9,359,621
(株)黄桜の里	▲12,893,301	1,829,055

資料: 由利本荘市

※平成26年度、(株)大内町交流センターについては好転の見込み。

1. プロジェクト構築の背景

【地域の経済・観光に関する現状と課題】

■ 地域経済を支える産業構造の変化

- ・少子高齢化、人口減少がさらに進行との予測
- ・経済産業環境の変化による地域経済の減速(地域中核企業の工場再編等)
- ・産業としての成長ポテンシャルの高い観光への期待の高まり

■ 由利地域の観光…「通過型観光」、多様ながら未活用な地域観光資源

- ・観光入込客は漸減傾向、かつ、滞在時間が短い「通過型観光」が主体(☞加えて、日沿道開通によるストロー化現象の危惧)
- ・自然・食・民俗文化等高いポテンシャルを有する素材は多数存在するが活用が不十分
- ・観光事業の実施主体となる民間事業者のイニシアチブは高くない

【課題】

■ 集客力の増強と「外貨」の獲得

- ・マーケット競争力のある地域観光資源の磨き上げ
- ・民間の主体的かつ、ビジネスとして持続・成長に向けた取組の促進
- ・県際間を含む広域的な連携と、多様な分野における連携の促進

2. これまでの取組および成果

由利本荘市・にかほ市の観光に関する基本計画等

【由利本荘市】「観光振興計画」「由利本荘市の鳥海山文化を活かした観光振興事業」等
【にかほ市】「観光アクションプラン」「観光振興プロジェクト」等

地域共通課題について広域的な連携による取組を推進

- (1) 機能合体組織「由利地域観光推進機構」
- (2) 重点エリア観光再構築推進事業
- (3) 食農観ビジネス等推進重点支援地域形成事業
- (4) 山形県庄内地域との県際間連携推進事業 など

① 由利地域観光推進機構(機能合体組織)

【目的】 由利地域の広域的な観光推進のため、一元的な事業実施体制を整備

【体制】 H23設置、H25は職員6名(市3名、県3名)市・県の負担金

【主な実施事業と実績・成果】

- ・メニュー開発等の地域観光資源の発掘・構築など
- ・広域観光道路「鳥海グリーンライン」整備(建設部門との連携)
- ・県内外への共同プロモーション
- ☞一体的組織での事業実施を通じた地域協働体制の基盤構築と、関係機関との連携強化
- ☞民間事業者等に対するサポート(時にはリーダー)により、地域からの高い期待

【今後の方向性】

- ・広域観光推進の旗振り役として、さらなる機能強化
- ・広域観光振興に資する戦略的施策・事業を民間事業者等と連携して企画 等

➡ 未来づくりプロジェクトの連携軸

②重点エリア観光再構築推進事業（秋田県観光文化スポーツ部補助事業）

【実施主体】由利地域観光振興会（地域の民間事業者等による任意の団体）

【実施概要】H24・・・地域観光資源についてSWOT分析による内部評価

H25・・・民間事業者等が自ら行うアクションプラン作成

☞キーコンセプト「鳥海山の資源を活用した観光ビジネスの推進」

【取組状況】民間を中心に7つの分科会を設置し、アクションプランを検討中

- ①スポーツ分科会・・・スポーツツーリズムの地域プラットフォームを形成する
- ②酒蔵分科会・・・酒蔵と観光事業者が連携して通年誘客を目指す
- ③トレッキング分科会・・・事業収益性と自然保護の視点を交えたプランを造成 等

➡ 民間の主体的な組織をフォロー

③食農観ビジネス等推進重点支援地域形成事業（秋田県観光文化スポーツ部補助事業）

【実施主体】由利地域食農観推進グループ（民間事業者等の任意団体）

【実施概要】

- ・地域の食材や食文化を活かした食ビジネスの展開と観光振興
- ・事業期間：H24～26（3年間）

【取組状況】

■コンセプト1・・・ご当地メニュー展開で観光収益アップ

- ・とり・べこ・ぶた（比内地鶏、秋田由利牛、鳥海ポーク）
- ・ハタハタなど魚介類、青果、山菜、伝統食材、酒蔵等の活用

■コンセプト2・・・加工食品の開発・販売による「外貨」獲得

- ・「由利のギフトセット」（地域のパッケージセット）
- ・ターゲット、デザイン、販路等のマーケティング



➡ 民間の主体的な取組をフォロー

④山形県庄内地方との県際間連携推進事業

- ・庄内総合支庁、酒田市、遊佐町、由利地域振興局、由利本荘市、にかほ市等による協議会等を設置し、観光を中心とした連携の取組。
- ・H20からは、由利地域振興局と庄内総合支庁で人事交流（主に観光を担当）



伝承芸能による交流



由利本荘ひな街道



全国ごてんまりコンクール



環鳥海スタンプラリー



シートウーサミット

3. プロジェクトの方向性と取組の視点

『地域観光資源の鳥海山を核とし、地域経済へ寄与する観光事業を推進』

【取組の視点1】観光客の視点から一体的な観光エリアの構築

- ・エリアを一体として捉え、行政区域にこだわらない観光客の視点からの取組
- ・エリア一体的な観光推進体制の整備
- ・庄内地域との県際間の連携を促進し、県境を越えた「鳥海観光エリア」の認知度向上

【取組の視点2】多様な地域資源を活用した交流の拡大

・多様かつ高いポテンシャルを有する地域資源を活かし、圏域の交流人口を拡大

- 自然環境・景観（鳥海山、湿原、九十九島、水、滝等）
- 文化（民俗伝承芸能、鳥海信仰、俳句、白瀬、フェライト等）
- スポーツ（サッカー、野球、ポート、自転車、トレッキング等）
- 食農（ハタハタ、岩ガキ、地場産品の料理（丼）、乳製品、イチジク、地酒等） など

『鳥海山を核とした広域観光振興プロジェクト』(概要)

I プロジェクトの背景
(現状と課題)

【地域の経済・観光に関する現状】

■地域経済を支える産業構造の変化

- ・少子高齢化・人口減少の進行
- ・経済産業環境の変化による地域経済の減速(地域中核企業等の工場再編等)
- ・成長ポテンシャルの高い観光産業への期待

■「通過型観光」と活用が不十分な地域観光資源・観光入込客は漸減、通過型観光が主体

[入込客]H20:5,774千人

→ H24:3,812千人

[宿泊率]H20全県:8.0%

→ 由利:4.0%

- ・有力な観光素材は多数するが、活用が不十分
- ・民間事業者のイニシアチブが低い

【観光振興の課題】

■集客力の増強と「外貨」の獲得

- ・民間の主体的かつビジネスとして持続・成長に向けた取組の促進
- ・市場競争力のある地域観光資源の磨き上げ
- ・広域的な連携と、多様な分野での連携の促進

II これまでの取組・成果
【観光に関する基本計画等】

由利本荘市:「観光振興計画」「鳥海山文化de元気事業」等
にかほ市:「観光アクションプラン」「観光振興プロジェクト」等

【広域的な連携による地域共通課題への取組】

由利地域観光推進機構

- ・2市と県の機能合体組織
- ・体験メニュー開発
- ・共同プロモーション
- ・「鳥海グリーンライン」整備(建設部門との連携)

食農観ビジネス推進事業

- ・民間事業者等が地域のコンテンツを活用した食ビジネスを展開
- ・ご当地メニュー開発
- ・加工食品の開発・販売

重点エリア観光再構築事業

- ・民間事業者等が地域の観光アクションプランを作成
- ・スポーツ、伝承芸能酒蔵ツーリズム等を検討

庄内地域との県際間連携

- ・山形県庄内地域等と連携し相互交流の拡大と広域観光を推進
- ・共同プロモーション
- ・連携イベント
- ・周遊旅行商品の造成

III プロジェクトの方向性と取組の視点

【施策の方向性】

地域観光資源の鳥海山を核とし、広域かつ多様な分野で連携しながら、地域経済へ寄与する観光産業を推進する

■観光客の視点からの一体的なエリア構築

- ・行政区域にこだわらない観光客視点
- ・エリア一体的な推進体制の整備
- ・県境を越えた「鳥海エリア」の認知度向上

■多様な地域資源を活用した交流拡大

- ・自然環境・景観(山、湿原、水、滝等)
- ・文化(伝承芸能、信仰、俳句、白瀬、フェライト、池田修三等)
- ・スポーツ(サッカー、自転車、ポート、トレッキング等)
- ・食農(ハタハタ、岩ガキ、由利牛、乳製品、イチジク、酒蔵・地酒等)

広域観光の推進による、交流人口の拡大と地域活性化

IV プロジェクト実施事業の概要

【事業期間】H26～H28年度【事業総額】約922百万円

★内、由利本荘市398百万円(観光286百万円、道路112百万円)

観光拠点センター等の整備

- ①道の駅「ねむの丘」の再整備・鳥海エリアのアクセス拠点、ポータル機能をもった新拠点センターを構築
- ②「花立クリーンハイツ」の再整備・山麓側の総合案内拠点機能として再構築
- ③鳥海案内人育成事業・エリア一体的な案内人の養成と、受付システム構築

鳥海山麓の魅力向上

- ①桑ノ木台湿原休憩所整備
- ②桑ノ木台湿原シャトルバス運行
- ③携帯電話不感地域解消事業
- ④祓川地区「天空カフェ」建設
- ⑤市道改良事業・祓川地区へ大型バス乗り入れ

広域・周遊アクセス構築

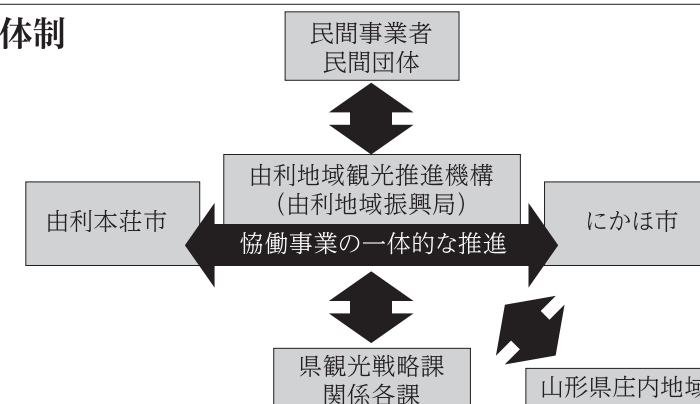
- ①鳥海山麓周遊バス運行・由利高原鉄道と連携した二次アクセスの確立と広域展開
- ②周遊バス導入
- ③観光拠点へのアクセス向上・拠点センターをハブ化し、空港や主要駅等からのアクセスを向上(バス、レンタカー、乗合タクシー等)

連携ソフト事業

ハード整備にあわせ、その活用、維持管理、運営のためのソフト事業を実施(一部再掲)

- (1)広域観光情報の共有と運用
- (2)二次アクセス・周遊ルート構築・確立
- (3)広域観光プロモーション
- (4)観光案内人育成事業
- (5)体験型など多様な観光メニュー造成
- (6)多様な分野での連携基盤の構築(スポーツツーリズム、伝承芸能等)
- (7)食ビジネス展開等

V 連携推進体制



VI 成果指標と目標

指標	現状(H24)	目標(H28)
観光入込客数	3,812千人	5,250千人
宿泊客数	147,077人	196,000人
シャトル/周遊バス利用客数	※3,502人	7,000人
「ねむの丘」入込客数	540,000人	700,000人

※注: H25

1.宿泊アンケート調査結果(宿泊得々キャンペーン)

本市では、由利本荘市総合計画策定のため市政モニター調査と秋田県大型キャンペーン(秋田DC)と第29回国民文化祭などの大型イベントに合わせた、宿泊客を対象としたアンケートを実施いたしました。

市政モニター調査では、「観光振興を活かしたまちづくり」に特に重要なことをあげていただき、調査結果のとおり「魅力ある観光施設の整備・充実」、「地域特産品の開発・PR活動」、「道路などの交通アクセスの向上」が上位となっており、観光地としての基盤づくりが求められています。

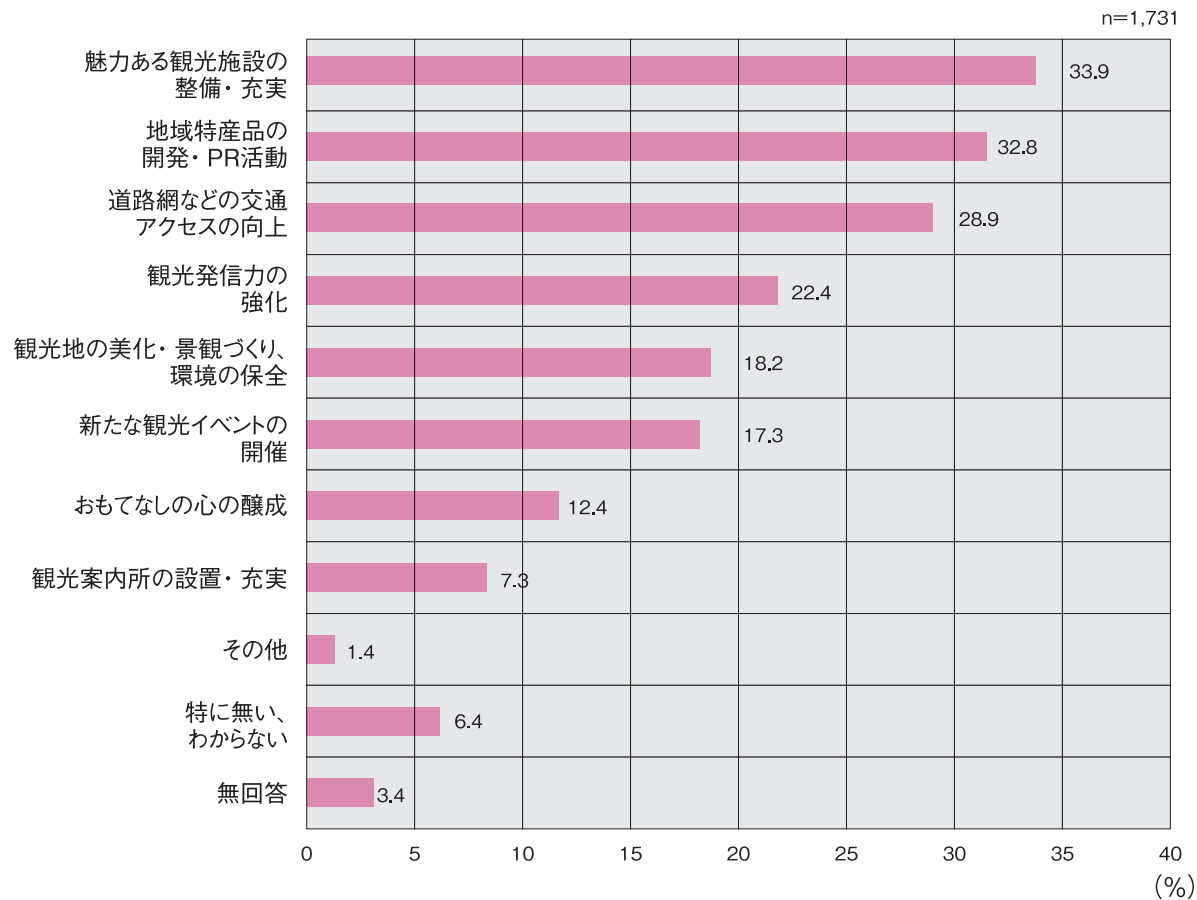
また、宿泊客を対象とした由利本荘市宿泊得々キャンペーンでのアンケート結果の概要は次のとおりです。

宿泊客の半数は「観光」を目的に「家族」、「友人」などと複数で宿泊しております。帰省客を除く県外からの宿泊客の多くは「初めて」の訪問と回答しており、観光地としての本市はこれからであると考えられます。

宿泊施設のおもてなしは概ね良い印象を持っているようで、6割以上の宿泊客がお土産を購入する予定でいます。

●市政モニター調査結果

問：観光振興を活かした魅力あるまちづくり」に向けて、特に重要なことは何だと思いますか。(主なもの2つまで)



●由利本荘市宿泊得々キャンペーンアンケート結果

対象期間：平成25年10～12月、平成26年9～11月

1 このキャンペーンを何で知りましたか？ (人)

回答		H25					H26				
		H26			県外	計	H26			県外	計
		市内	市外	計			市内	市外	計		
1	チラシ・ポスター	58	111	169	236	405	30	103	133	256	389
2	TV	3	3	6	1	7	0	2	2	5	7
3	ラジオ	0	1	1	0	1	0	0	0	0	0
4	新聞	0	8	8	0	8	1	12	13	2	15
5	雑誌	0	3	3	23	26	3	2	5	14	19
6	広報誌	8	4	12	6	18	4	6	10	8	18
7	インターネット	6	26	32	44	76	3	13	16	71	87
8	クチコミ	27	51	78	66	144	18	34	52	55	107
9	その他	44	96	140	294	434	29	86	115	491	606
※	無回答	12	13	25	16	41	22	31	53	120	173
計		158	316	474	686	1,160	110	289	399	1,022	1,421

2 どなたと宿泊されましたか？ (人)

回答		H25					H26				
		秋田県			県外	計	秋田県			県外	計
		市内	市外	計			市内	市外	計		
1	一人	5	13	18	68	86	4	18	22	129	151
2	友人	54	67	121	119	240	19	70	89	223	312
3	家族	73	175	248	416	664	58	124	182	453	635
4	その他	22	58	80	81	161	12	54	66	127	193
※	無回答	4	3	7	2	9	17	23	40	90	130
計		158	316	474	686	1,160	110	289	399	1,022	1,421

3 どのような目的で由利本荘市に滞在しましたか？ (人)

回答		H25					H26				
		秋田県			県外	計	秋田県			県外	計
		市内	市外	計			市内	市外	計		
1	観光	37	157	194	385	579	26	118	144	466	610
2	仕事	7	50	57	79	136	5	49	54	103	157
3	スポーツ大会	0	20	20	60	80	0	8	8	92	100
4	その他	86	82	168	159	327	55	85	140	264	404
※	無回答	28	7	35	3	38	24	29	53	97	150
計		158	316	474	686	1,160	110	289	399	1,022	1,421

各種調査結果の概要

4 今回由利本荘市を訪れたのは？ (人)

回答		H25					H26				
		秋田県			県外	計	秋田県			県外	計
		市内	市外	計			市内	市外	計		
1	初めて	1	30	31	250	281	3	25	28	412	440
2	数ヶ月ぶり	19	185	204	167	371	6	171	177	238	415
3	数年ぶり	57	90	147	260	407	5	52	57	270	327
※	無回答	81	11	92	9	101	96	41	137	102	239
計		158	316	474	686	1,160	110	289	399	1,022	1,421

5 宿泊施設のおもてなしはどうでしたか？ (人)

回答		H25					H26				
		秋田県			県外	計	秋田県			県外	計
		市内	市外	計			市内	市外	計		
1	大変よかった	74	147	221	288	509	38	124	162	385	547
2	よかった	61	120	181	268	449	37	98	135	385	520
3	ふつう	20	37	57	103	160	14	32	46	138	184
4	やや悪かった	0	3	3	2	5	0	3	3	2	5
5	悪かった	0	0	0	1	1	0	2	2	1	3
※	無回答	3	9	12	24	36	21	30	51	111	162
計		158	316	474	686	1,160	110	289	399	1,022	1,421

6 お土産は購入されましたか?または購入する予定ですか？ (人)

回答		H25					H26				
		秋田県			県外	計	秋田県			県外	計
		市内	市外	計			市内	市外	計		
1	購入したまたは購入する予定	72	191	263	486	749	51	155	206	655	861
2	購入しない	51	53	104	67	171	17	52	69	106	175
3	わからない	18	63	81	113	194	18	52	70	134	204
※	無回答	17	9	26	20	46	24	30	54	127	181
計		158	316	474	686	1,160	110	289	399	1,022	1,421

7 応募者数 (参考)由利本荘市宿泊得々キャンペーン応募者数

地域名	H25						H26					
	男性		女性		計		男性		女性		計	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
秋田県	267	39.85%	207	42.24%	474	40.90%	200	27.32%	199	28.88%	399	28.10%
市内	77	11.49%	81	16.53%	158	13.63%	48	6.56%	62	9.00%	110	7.75%
市外	190	28.36%	126	25.71%	316	27.27%	152	20.77%	137	19.88%	289	20.35%
県外	403	60.15%	283	57.76%	687	59.19%	532	72.68%	490	71.12%	1,023	71.97%
計	670		490		1,160		732		689		1,421	

8 県内地域別応募者数

地域名	H25						H26					
	男性		女性		計		男性		女性		計	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
鹿角	13	4.87%	6	2.90%	19	4.02%	1	0.50%	1	0.50%	2	0.50%
北秋田	5	1.87%	4	1.93%	9	1.90%	4	2.00%	1	0.50%	5	1.26%
山本	7	2.62%	5	2.42%	12	2.54%	6	3.00%	2	1.01%	8	2.01%
秋田	118	44.19%	83	40.10%	201	42.50%	90	45.00%	79	39.70%	169	42.47%
由利	78	29.21%	87	42.03%	165	34.87%	58	29.00%	80	40.20%	138	34.66%
仙北	18	6.74%	5	2.42%	23	4.87%	25	12.50%	15	7.54%	40	10.06%
平鹿	13	4.87%	8	3.86%	21	4.44%	5	2.50%	8	4.02%	13	3.26%
雄勝	15	5.62%	9	4.35%	24	5.08%	11	5.50%	13	6.53%	24	6.03%
計	267		207		474		200		199		399	

9 地方別応募者数

地域名	H25						H26					
	男性		女性		計		男性		女性		計	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
北海道	7	1.04%	8	1.63%	15	1.29%	18	2.46%	15	2.18%	33	2.32%
東北	433	64.63%	310	63.27%	744	64.11%	400	54.64%	356	51.67%	757	53.24%
青森県	8	1.19%	6	1.22%	14	1.21%	23	3.14%	30	4.35%	53	3.73%
岩手県	29	4.33%	13	2.65%	42	3.62%	23	3.14%	10	1.45%	33	2.32%
宮城県	77	11.49%	45	9.18%	122	10.53%	90	12.30%	53	7.69%	143	10.07%
秋田県	267	39.85%	207	42.24%	474	40.90%	200	27.32%	199	28.88%	399	28.10%
山形県	39	5.82%	29	5.92%	68	5.87%	42	5.74%	51	7.40%	93	6.55%
福島県	13	1.94%	10	2.04%	23	1.98%	22	3.01%	13	1.89%	35	2.47%
関東	142	21.19%	116	23.67%	258	22.26%	213	29.10%	196	28.45%	409	28.80%
中部	66	9.85%	34	6.94%	100	8.63%	70	9.56%	61	8.85%	131	9.23%
関西	15	2.24%	13	2.65%	28	2.42%	17	2.32%	28	4.06%	45	3.17%
中国	5	0.75%	2	0.41%	7	0.60%	3	0.41%	3	0.44%	6	0.42%
四国	1	0.15%	1	0.20%	2	0.17%	3	0.41%	14	2.03%	17	1.20%
九州・沖縄	1	0.15%	6	1.22%	7	0.60%	8	1.09%	16	2.32%	24	1.69%
計	670		490		1,160		732		689		1,421	

SWOT分析法による鳥海エリアの「強み」・「機会」・「脅威」・「弱み」

(重点エリア観光再構築推進事業実績報告書より)

資料：由利地域観光振興会

鳥海エリアは、鳥海山および鳥海山麓の恵まれた観光コンテンツを持ちながら、宿泊キャパシティやJR交通網の根本的な問題を抱えており、通過型観光に甘んじてきました。

この問題を解決し、観光滞在時間を延ばすために、鳥海エリアの問題点をあらためて浮き彫りにし、SWOT分析法により抽出した「強み」・「機会」・「脅威」・「弱み」をクロス分析にかけ、「積極戦略」「改善戦略」「差別化戦略」「縮小・撤退戦略」をまとめ、内部からの問題整理を行いました。

積極戦略（強み × 機会）

戦略①鳥海山の自然を活用した商品開発

〈背景〉

健康志向、自然志向、安近短旅行などが人気を得る中、自然を活かしたトレッキングや登山など、鳥海山を活かしたアウトドアへの取り組みができるのは、このエリアの大きな強みです。

鳥海山を中心とする恵まれた自然景観（オンリーワンの高山植物、山麓、湿原、高原、日本海、夕日など）まだ未開、手つかずの自然も残り、それらが近接していることを大いに利用して観光商品を造成することがこのエリアでは重要です。

〈具体策〉

○アウトドア利用者にターゲットを絞った戦略の展開。

○守るべき自然と公開する場所のメリハリをしっかりとし、場合によってはトレッキングコースの一部規制を図るなど攻守のバランスを図ります。

戦略②鳥海山の食の恵みを活用した商品開発

〈背景〉

鳥海の恵みの食材と水を大いに利用した観光商品の開発は、その土地ならではの特徴を求める現代の国内旅行事情を捉える意味で、極めて重要です。

このエリアには郷土料理と呼べるものが少なく、通年で食べられるような定番料理もないと言われていますが、鳥海エリアならではの古くからの伝統領地や郷土料理は確かに存在しています。

〈具体策〉

○古くからの伝統料理や郷土料理を発掘し、ブラッシュアップして、ご当地料理とするなど、食による誘客をめざします。

○5つの酒蔵や6つの道の駅、農産加工者や直売施設と観光業者のマッチングを図ります。

戦略③鳥海山の魅力とローカル鉄道を利用した商品開発

〈背景〉

スローライフをイメージさせ、昭和レトロな由利高原鉄道は、観光商品としての魅力を持ち合わせています。

〈具体策〉

○鳥海山の魅力、グリーンラインなどの周遊ルートとの連携により、観光コースに組み入れた商品造成やイベントの開発を図ります。

戦略④道路網（国道等）を活用した観光開発

〈背景〉

鳥海エリアは国道7号の動脈に、105号、107号、108号が結節しており、自動車交通の要衝であります。さらに日本海沿岸高速自動車道が延伸することで、庄内・山形や大都市圏の新潟県や宮城県とも近接になり、庄内・秋田空港の空路ともアクセスが向上します。

ただし、従来から鳥海エリアの観光は、通過型観光の問題が指摘されており、何の手立てもなければ、高速道路の延伸は「通過型」に拍車をかける可能性が大きい。

〈具体策〉

○エリアの特徴として、アウトドアフィールドや、集客力のある道の駅、小さいが特徴のある温泉などがバランスよく立地しており、これらを結ぶための二次アクセスや誘導するための道路案内の整備を行います。

戦略⑤全国的に注目を浴びるイベントの創出

〈背景〉

鳥海エリアには、全国区のイベントがなく、イベント数自体も少ない。また、既存イベントは外部から観光客を誘引する意識が薄く、多くは行政主導で近隣住民が参加するものとなっているため、経済行為としての観光の観点、いわゆる外貨の獲得には至っていません。

〈具体策〉

○民間の慣行誘客の視点や、地域おこしの意識を持ち、地域エゴを捨て去って、新しいイベントの創出を図ります。

○情熱を持った人材やグループの育成、発掘を図ります。

戦略⑥首都圏だけに頼らない観光誘客

〈背景〉

鳥海エリアは、国道7号及び羽越本線により庄内（山形）・新潟等信越圏と直結する地理的優位性や、日沿道延伸など高速交通網の進展を活かし、これら近隣県及びそこと連結する近隣圏域へのプロモーションを強化することで、首都圏だけに頼らない新たな顧客開拓を狙います。

〈具体策〉

○仙台圏及び山形、新潟等近隣圏域へのプロモーションの強化

○地域ローカル旅行会社とのクーポン契約施設数を増強推進

改善戦略（弱み × 機会）

戦略①観光客目線によるおもてなし整備と意識改革

〈背景〉

地域ホスピタリティの向上は、観光振興推進において不可欠な課題である。例えば「おもてなし」の意識改革を図るため、宿泊施設や観光業者はもとより、地域住民にも地域の魅力を旅行者に伝える力を付けてもらう、あるいはエリア内の宿泊施設間でのポーターシステム整備など、ソフト&ハード両面での受け入れ環境の整備を、「観光客目線」で進めることが肝要です。

〈具体策〉

○トレッキングコースの一部規制

○宿泊施設間の荷物転送システムの構築（ポーターシステム）

○二次アクセスの改善

○人材の発掘、育成

○地元を知る

○伝統食の発掘と研究

○活字媒体への適切なタイミングでの情報発信

戦略②インターネットを活用する

〈背景〉

当エリアの観光は、元々広告宣伝力や情報の発信力が弱く、販促活動によるアピールも不足していました。さらに情報化時代の中であって、ネットでの予約や情報発信テクニック、SNS利用など、ITスキルの人材不足などが競合地との格差をさらに広げています。

スマートフォンをはじめ、インターネット環境がさらに加速している現在、情報発信の多様化への対策は急務であるが、人材不足の中、一から始めていたのでは到底先進地には追いつきません。

〈具体策〉

- 大手予約サイトの利用
- ITスキルの委託などの新たな取り組み

差別化戦略（強み × 脅威）

戦略①着地型観光を極める

〈背景〉

現地に来て現地の人が案内する着地型観光の推進は、エリアの風土にマッチしており、地域の独自性を表現しやすく、全国的に取り組みが盛んになっています。

また、秋田県全般に言えることですが、冬季は悪天候が長く続き、交通手段に対する信頼性も低い。しかし、手をこまねいては冬季を克服することはできず、イベントの活用や企画力によってチャンスを作り出すことが重要です。

〈具体策〉

- 新たなイベントの構築
- 既存イベントのブラッシュアップ
 - ◇冬季の観光客の落ち込みに対し冬季型の観光プランの造成
 - ・掛魚まつりや裸まいりなど、地域に根ざした行事を、一週間程度のイベントにブラッシュアップし、最終日を従来のまつりの日に当てるなど、既存イベントを見直します。
 - ・雪や冬に縁のない、台湾やタイなどからのインバウンドを推進し、スノーモービルなどの冬のアクティビティによる冬体験型の着地観光をめざします。
 - ・雪寄せツアーやスノートレッキング、冬の変わりやすい天気を逆利用した企画などの着地型プランを造成します。
- その他着地型の取組
 - ◇地域の歴史や産業の取り組み
 - ・教育旅行マーケットは着地型へ変化しており、地元電子産業の集積を活用した商品開発や、フェライト科学館、TDK歴史館、白瀬南極探検隊記念館の利活用についても、もっと掘り下げてブラッシュアップします。
 - ・地域の歴史を掘り下げている天鷲村や九十九島、北前船文化の残る沿岸部の酒蔵も加えた「まちあるき」について、郷土史家などの協力を得て、もっと掘り下げた着地型商品を作り上げます。
 - ・昨今の西日本や都会の夏の猛暑は、比較的冷涼な鳥海エリアにはチャンスと捉え、避暑地として長期滞在型観光を打ち出します。
 - ・パワースポットブームを捉えて、鳥海山山岳信仰を活用した着地型商品のブラッシュアップを図ります。
 - ・鳥海山の山岳信仰を基にした、多くの伝承芸能の観光化ブラッシュアップを図ります。
- 着地型のターゲット
 - ・着地型観光にあっては、体験内容に合わせて、それぞれの年代やレアな情報に興味を持つ層など、ターゲットを明確にし、あるいは絞って、関係団体や関係雑誌も対象にした、従来の手法にとらわれない自由な発想でアプローチします。

縮小・撤退戦略（弱み × 脅威）

- 多すぎる観光窓口の統一
- 地域エゴを無くす
- 観光プロモーションの整理

由利本荘市の道の駅の魅力

道の駅「岩城」



秋田市と本市の中心部を国道7号で結ぶ中間地点に位置する道の駅です。物販販売、多目的施設を備えた交流ターミナル「ケベック」や岩城温泉「港の湯」が併設されています。

秋田県由利本荘市岩城内道川字新鶴湯192-43
TEL:0184-73-3789
HP: <http://www.iwaki-park.co.jp/>

施設情報



日本海を望むレストラン レストラン はまなす

日本海を望む広々とした空間で、新鮮な海の幸や山の幸を活かした旬の美味しさを満喫できます。



営業： [4/1～10/31] 午前11時～午後8時
[11/1～3/31] 午前11時～午後7時
休業： [4/1～6/30] 第2水曜
[7/1～8/31] 無休
[9/1～10/31] 第2水曜
[11/1～3/31] 第2・第4水曜、1/1(元日)

秋田の名物や岩城の特産品などが豊富 交流ターミナルケベック

秋田の名物や岩城の特産品などを豊富に展示販売しています。



営業： [4/1～10/31] 午前9時～午後8時
[11/1～3/31] 午前9時～午後7時
休業： [4/1～6/30] 第2水曜
[7/1～8/31] 無休
[9/1～10/31] 第2水曜
[11/1～3/31] 第2・第4水曜、1/1(元日)

日本海を望む温泉 岩城温泉 港の湯

日本海を眺めながら大浴場、サウナ、露天風呂などで、快適にのんびりご利用いただける空間です。



料金： [3時間] 大人 300円、小学生 200円
[1日] 大人 500円、小学生 400円
営業： 午前9時～午後9時
休業： [4/1～6/30] 第2水曜
[7/1～8/31] 無休
[9/1～10/31] 第2水曜
[11/1～3/31] 第2・第4水曜、1/1(元日)

地元の採れたて野菜が並ぶ 農産物直売所

地元の採れたて野菜が並ぶ岩城町産直会の農産物販売所です。安くて新鮮な野菜が並びます。



営業： [4/1～10/31] 午前8時45分～午後6時
[11/1～3/31] 午前8時45分～午後5時
休業： [4/1～10/31] 無休
[11/1～3/31] 第2・第4水曜

地元の取れたての鮮魚が並ぶ 岩城町活魚センター

地元の取れたて鮮魚が並びます。炭火で焼いた魚なども販売しています。



営業： [4/1～10/31] 午前9時～午後6時
[11/1～3/31] 午前9時～午後5時30分
休業： 1/1～1/3

日本海を眺めながら休憩できる 無料休憩所

美しい景色を眺めながら休憩できる無料休憩所です。道路情報コーナーも併設されています。



営業： 24時間
休館： 無休

道の駅 岩城 施設情報一覧

駐車場(普通車)	120台	情報端末	○	食堂	○
駐車場(大型)	20台	公衆電話	○	軽食・喫茶	○
駐車場(身障者用)	2台	公衆FAX	—	土産販売所	○
トイレ(男性用)	27基	無料休憩所	○	産直販売所	○
トイレ(女性用)	22基	温泉	○	自動販売機	○
トイレ(身障者用)	3基				

道の駅「おおうち」



国道105号を中心市街地から車で約10分ほど東に来たところにある道の駅です。施設内には、宿泊、温泉、物販販売、情報施設、多目的施設を備えた「ばぼろっこ」があります。

秋田県由利本荘市岩谷町字西越36

TEL:0184-62-1126

HP:<http://www.popolocco.com/Pages/default.aspx>

施設情報

郷土料理を楽しめるレストラン レストランきぬさや

美味しさ自慢の「秋田米」、地元の旬の素材を取り入れた郷土料理をはじめ幅広いメニューが用意されている。

営業：午前11時～午後8時30分(L.O. 午後8時)
(午後2時～午後5時30分は、軽食・喫茶)
休業：年に2日間程度のメンテナンス休業あり



のんびりと寛ぎの温泉 楠の湯

明るく広々とした浴室やリラクスルーム・休憩室で、のんびりと寛ぎのひと時を過ごせる。

料金：[1回] 大人300円、小学生200円
[1日] 大人400円、小学生300円
営業：午前9時～午後9時
休業：年に2日間程度のメンテナンス休業あり



新鮮な野菜や特産品など豊富な品揃え 農産物直売所 ひまわり

地元の農家が心を込めて作った農産物や漬物、山菜、加工品等を手頃な価格で直売している。

営業：午前9時～午後5時
休業：年に2日間程度のメンテナンス休業あり



ホッとくつろげる快適宿泊空間 ばぼろっこ

自然豊かな景色を見ながらゆっくりくつろげる和室と洋室。

休業：年に2日間程度のメンテナンス休業あり



はーとぼーと館のらーめん・お食事処 ばぼろ亭

ラーメンは、普通、半盛、大盛、てんこ盛にできる。ご飯は、店主自家製有機栽培米「ひとめぼれ」使用。

電話：0184-65-3477
営業：午前10時～午後3時
休館：盆、年始



ゆっくり休憩、いこいの場所 無料休憩所

ゆっくりくつろげる無料の休憩所。

営業：午前6時～午後9時
休館：無休



道の駅 おおうち 施設情報一覧

駐車場(普通車)	246台	情報端末	○	食堂	○
駐車場(大型)	8台	公衆電話	○	軽食・喫茶	○
駐車場(身障者用)	1台	公衆FAX	—	土産販売所	○
トイレ(男性用)	20基	無料休憩所	○	産直販売所	○
トイレ(女性用)	15基	温泉	○	自動販売機	○
トイレ(身障者用)	2基				

道の駅「東由利」



秋田県南部を東西に結ぶ国道107号で通じている本市の中心市街地と横手市のほぼ中間にある道の駅です。ショッピングプラザ「ぶれっそ」や黄桜温泉「湯楽里(ゆらり)」があります。

住所：秋田県由利本荘市東由利老方字畑田28

TEL:0184-69-2611

HP:<http://www.ont.ne.jp/~k-yurari/>

施設情報

地元のこだわり食材を使った食事処 食事処 やしお

精米から10日以内の100%東由利産のあきたこまちに秋田由利牛、フランス鴨などこだわりの品を出している。

営業：午前11時～午後9時(L.O. 午後8時30分)
休業：毎月第一・第三月曜日
(ただし祝日の場合は翌平日)



美肌の温泉 黄桜温泉 湯楽里

良質の温泉は美肌の湯で、行き届いた設備とおもてなしの真心によって、1日ゆっくり過ごせる。

料金：[90分] 大人300円、小学生200円
[1日] 大人400円、小学生300円
営業：午前10時～午後9時
休業：毎月第一・第三月曜日
(ただし祝日の場合は翌平日)



東由利地域の特産品が豊富 売店

黄桜温泉「湯楽里」内のロビーに東由利地域の特産品などが豊富にそろっている。

営業：午前10時～午後9時
休業：毎月第一・第三月曜日
(ただし祝日の場合は翌平日)



ここだけのフランス鴨バーガー おやつ駅

種類、ごはん類、ソフトクリームなど豊富なメニューがある。ご当地バーガーのフランス鴨バーガーも人気。

電話：0184-62-4138
営業：午前9時～午後7時
休業：第2・4水曜



農林水産物の直売所もある ショッピングプラザ ぶれっそ

道の駅に併設されたショッピングプラザ。地元の農林水産物の直売店もある。

電話：0184-69-3266
営業：午前9時～午後7時
休業：お問い合わせください。
HP:<http://www.ont.ne.jp/~presso/>



無料の休憩所 休憩所

道の駅の休憩室。

営業：午前7時～午後9時
休館：無休



道の駅 東由利 施設情報一覧

駐車場(普通車)	202台	情報端末	○	食堂	○
駐車場(大型)	18台	公衆電話	○	軽食・喫茶	○
駐車場(身障者用)	6台	公衆FAX	○	土産販売所	○
トイレ(男性用)	16基	無料休憩所	○	産直販売所	○
トイレ(女性用)	10基	温泉	○	自動販売機	○
トイレ(身障者用)	1基				

道の駅「にしめ」



秋田県の日本海側を南北に走る国道7号を中心市街地から車で10分ほど南に来たところにある道の駅です。施設内には、物販販売、情報施設を備えており、周辺には入浴施設やボーリング場があります。

住所：秋田県由利本荘市西目町沼田字新道下1112-2
TEL:0184-33-4260
HP:<http://yuriho.com/nisime/index.php>

施設情報

地元の新鮮な食材とおいしい秋田米 味処 日本海

旬の地元食材をふんだんに使用したごはんがおいしい「道の駅 にしめ」のお食事処。



電話： 0184-33-4150
営業： 午前11時～午後3時
休業： 年末・年始

秋田の名物や西目の特産品などが豊富 物産館

秋田県内や由利本荘市周辺のお土産が数多くそろっている。



営業： [4月～10月] 午前9時～午後7時
[11月～3月] 午前9時～午後6時
休業： 年末・年始

小さなお店には美味がある 和麺 ささき

おいしいものをお手軽な価格で提供しているそば・うどんの店。



電話： 0184-33-4568
営業： 午前7時～午後6時
休業： 年末・年始

ドライブ中の休憩と情報確認 情報ターミナル

秋田県内の大きな観光案内図があり、ドライブに必要な情報がいつでも確認できる。



営業： 24時間
休憩： 無休

ホルモンラーメンと定食がオススメ 「日の丸」フーズ

シンプルであっさりしたスープのホルモンラーメンは、12時間以上じっくり煮込んだホルモンがボリューム満点。



電話： 0184-33-3100
営業： 午前7時～午後6時
休業： 年末・年始

24時間営業・年中無休の入浴宿泊施設 にしめ湯娘ランド

道の駅に隣接している24時間営業・年中無休の健康ランドタイプの入浴宿泊施設。



電話： 0184-33-4422
営業： 24時間
休業： 無休
HP:<http://www.nisime-yukkoland.co.jp/>

道の駅 にしめ 施設情報一覧

駐車場(普通車)	132台	情報端末	○	食堂	○
駐車場(大型)	20台	公衆電話	○	軽食・喫茶	○
駐車場(身障者用)	2台	公衆FAX	○	土産販売所	○
トイレ(男性用)	20基	無料休憩所	○	産直販売所	○
トイレ(女性用)	15基	温泉	—	自動販売機	○
トイレ(身障者用)	2基				

道の駅 「清水の里・鳥海郷」



本市の中心市街地と湯沢市のほぼ中間である国道108号沿いにある道の駅です。物品販売の施設があります。

住所：秋田県由利本荘市鳥海町上笹子字塚台100
TEL:0184-59-2022
HP:<http://ktmhp.com/hp/hotin-chokai/page1/>

施設情報

百宅そばと鳥海こまちめん ほっといん鳥海 レストラン

地元産そば粉の百宅(ももやけ)そばや、地元産のあきたこまちの米粉を使用した「鳥海こまちめん」がある。



営業： 午前11時～午後6時(L.O. 午後5時30分)
[12/16～4/15] 午前11時～午後4時
休業： 12/31～1/2

ほっといん鳥海 直売所

地元産の農産物や漬物・米加工品・松皮餅・天然キノコなどを取りそろえている。



営業： 午前8時30分～午後6時
休業： 12/31～1/2

無料休憩所

休憩室内にはタッチパネル式の情報端末装置を備え、道路交通の情報を始め、各種情報を提供している。



営業： 午前8時～午後8時
休業： 12/31～1/2

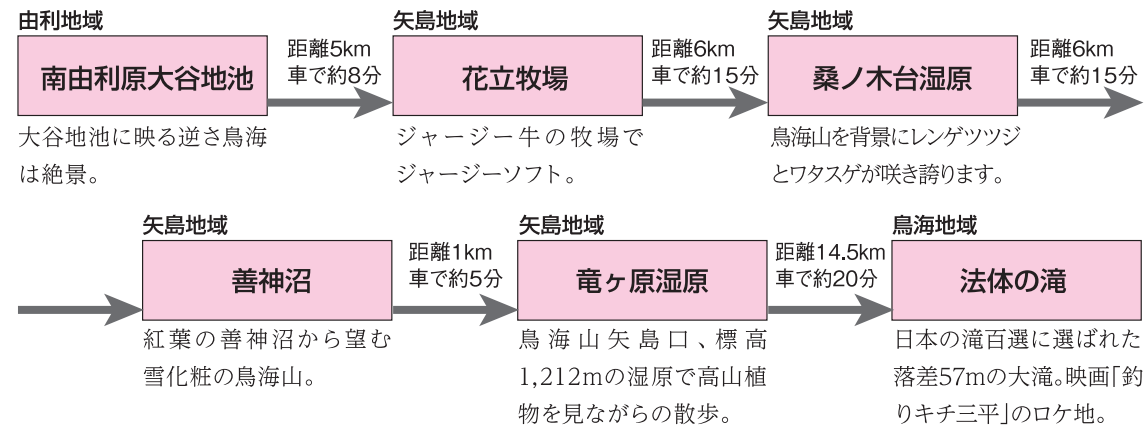
道の駅 鳥海郷 施設情報一覧

駐車場(普通車)	79台	情報端末	○	食堂	○
駐車場(大型)	7台	公衆電話	○	軽食・喫茶	—
駐車場(身障者用)	2台	公衆FAX	—	土産販売所	—
トイレ(男性用)	9基	無料休憩所	○	産直販売所	○
トイレ(女性用)	6基	温泉	—	自動販売機	○
トイレ(身障者用)	1基				

1. 日帰りプラン

鳥海山麓コース

【お問い合わせ】南由利原青少年旅行村：0184-53-2126
花立牧場工房ミルジー：0184-27-5111



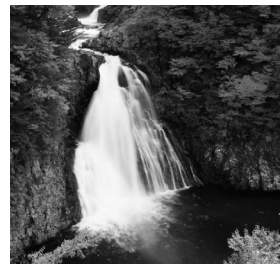
南由利原大谷地池(逆さ鳥海)



花立牧場工房ミルジー



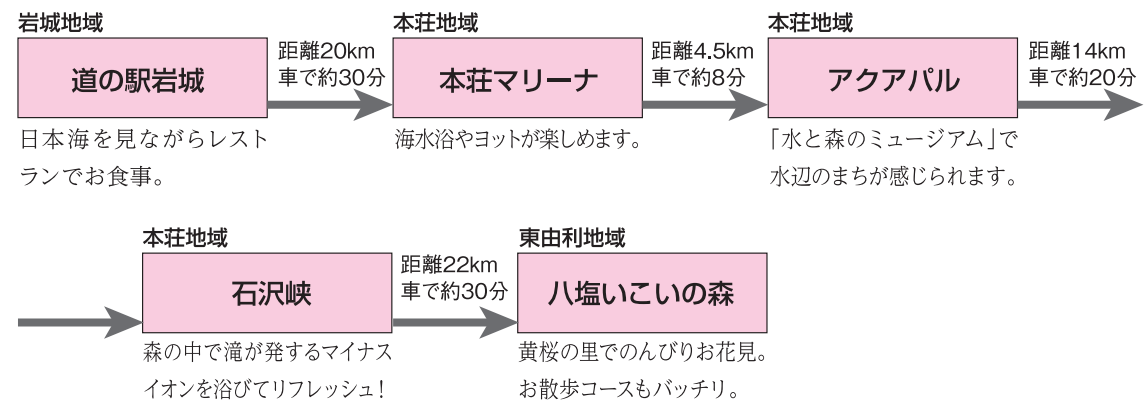
桑ノ木台湿原



法体の滝

ウォーターサイドコース

【お問い合わせ】道の駅「岩城」：0184-73-3789
由利本荘市観光協会：0184-24-6376



道の駅 岩城



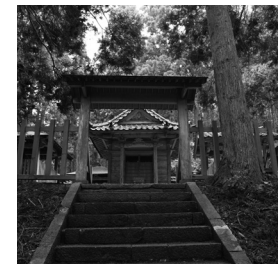
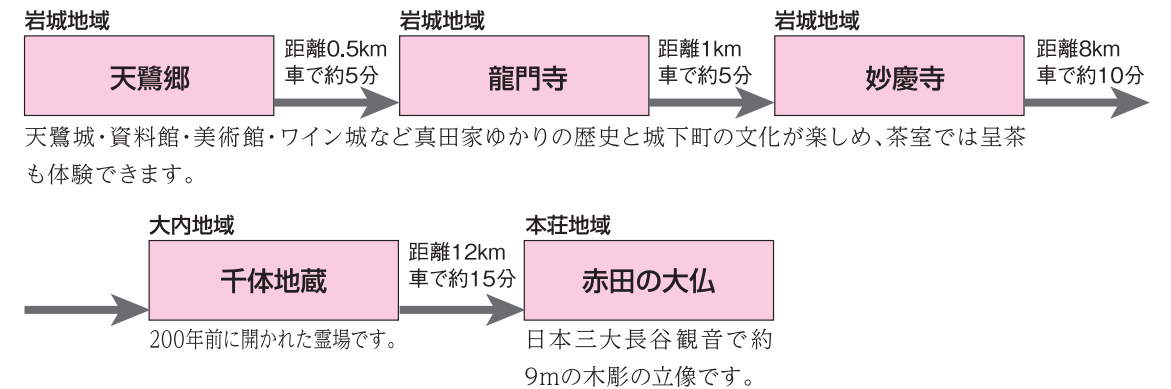
石沢峡



八塩いこいの森

歴史探訪コース 1

【お問い合わせ】天鷲村：0184-74-2525
亀田城 佐藤八十八美術館：0184-74-2100



龍門寺



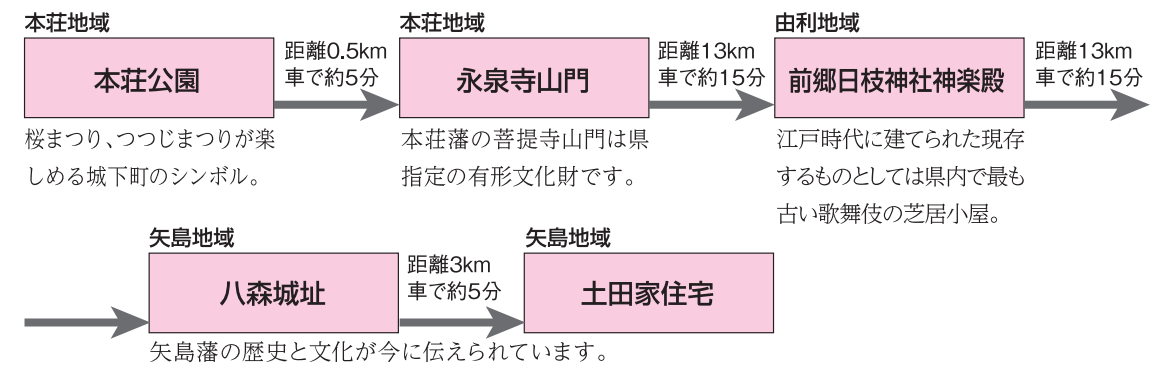
千体地蔵



赤田の大仏

歴史探訪コース 2

【お問い合わせ】由利本荘市観光協会：0184-24-6376



本荘公園



永泉寺



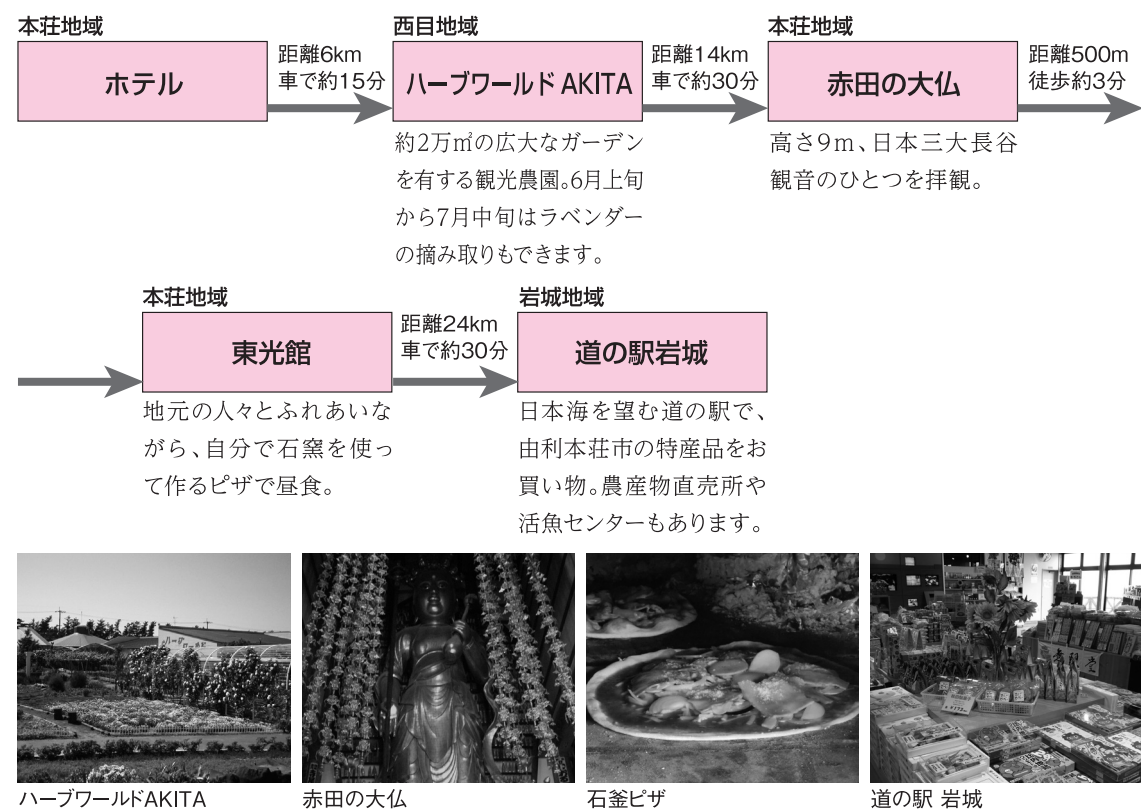
土田家住宅

2. 一泊二日プラン

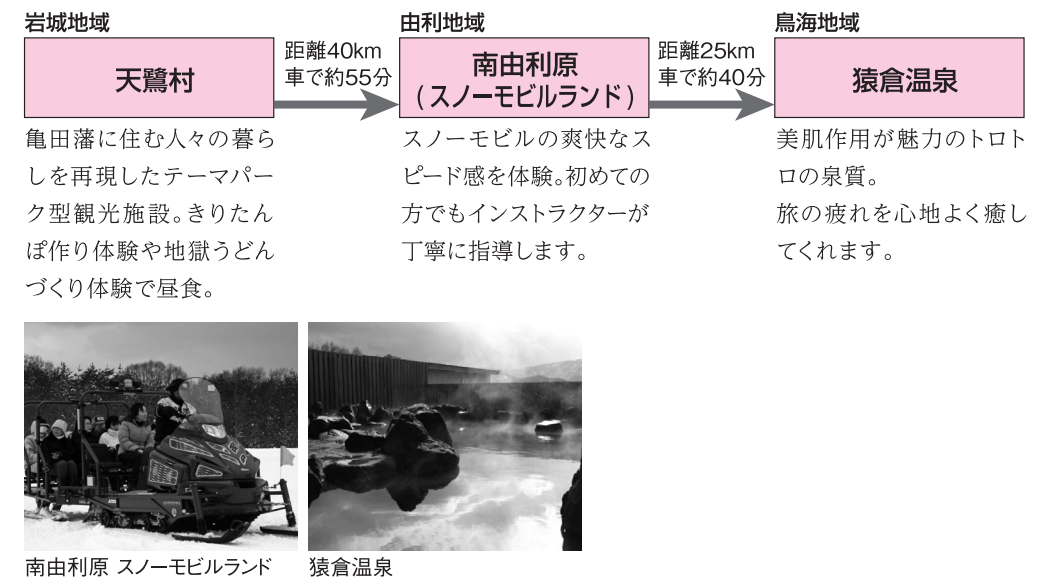
1日目 【お問合わせ】 そば処ももや：0184-57-3800



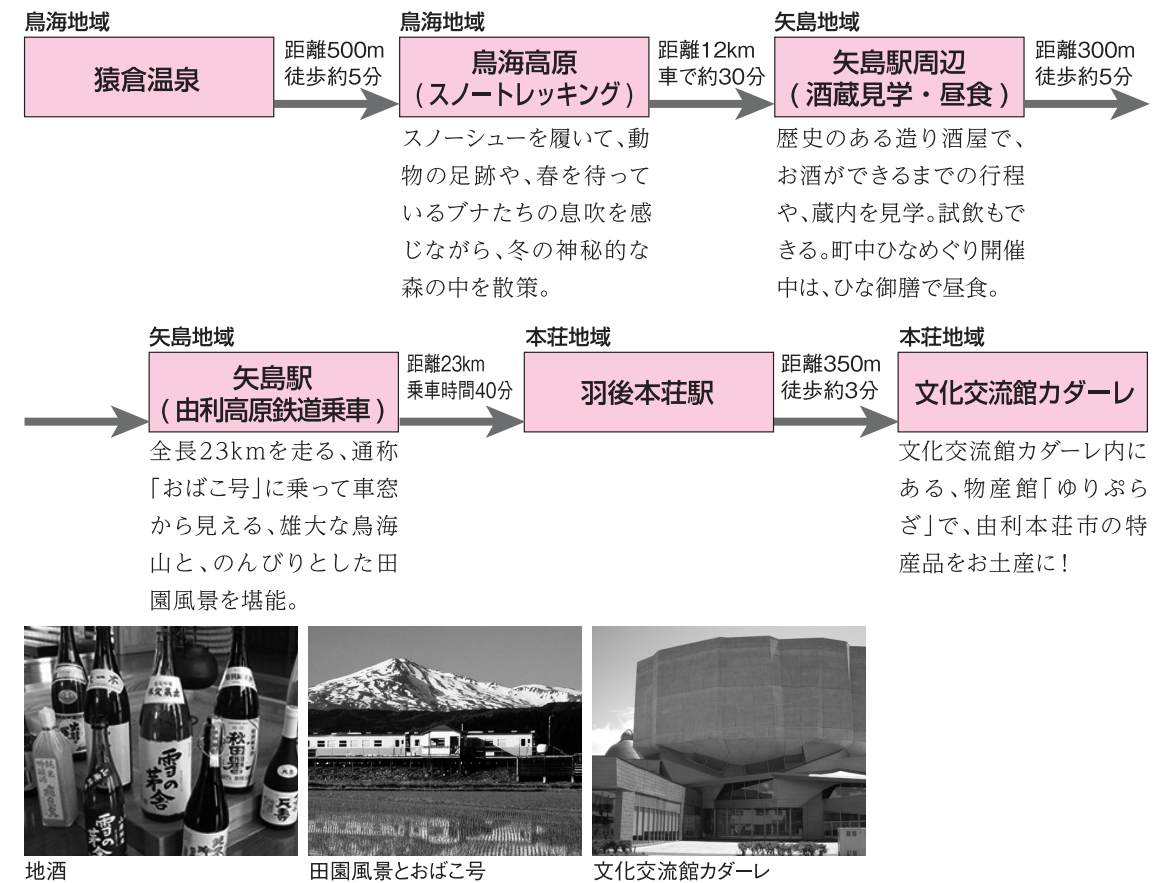
2日目 【お問合わせ】 ハーブワールド AKITA：0184-33-4150
道の駅「岩城」：0184-73-3789



1日目 【お問合わせ】 天鷲村：0184-74-2525
南由利原青少年旅行村：0184-53-2126



2日目 【お問合わせ】 由利高原鉄道：0184-56-2736
JR 羽後本荘駅：0184-22-0221
文化交流館カダーレ：0184-22-2500



1. 地域の自慢の品々



●秋田由利牛

鳥海山麓に広がる高原では、良質な水・牧草により黒毛和種「秋田由利牛」が飼育されています。農家の熱心な健康管理のもと、自然豊かな環境でのびのびと育った秋田由利牛は、きめ細かくサシ（霜降り）が入った肉質の良さなどから、銘柄牛の中でも新たなブランド牛として、県内はもとより首都圏からも注目されています。

鳥海山麓の自然環境と歴史ある高い飼育技術とが融合した秋田由利牛は、ステーキやすき焼きにおすすめです。由利の逸品秋田由利牛を是非一度お試しください。

【お問い合わせ】秋田由利牛振興協議会：0184-24-6354

●土づくり実証米

美味しいお米を作るには、土台となるしっかりとした土をつくり、根・茎・葉が丈夫にしなければなりません。JA秋田しんせいでは毎年、腐植酸を入れた土づくりを積極的に推進し、高品質・良食味米の生産に取り組んでいます。

【お問い合わせ】秋田しんせい農業協同組合：0184-27-1601



●日本酒

鳥海山の豊富な水、良質の米、酒づくりに適した気候風土に恵まれ、古くから醸造業が盛んです。原料の吟味に細心の注意を払い、醸造法にもこだわった大吟醸などの高級酒が製造されています。酒どころ秋田の中でも本市では4つの酒蔵で優れた地酒が造られ、国内外に出荷されています。

【お問い合わせ】
彌瀾酒造店：0184-22-0536 秋田誉酒造：0184-22-5231
天寿酒造：0184-55-3165 佐藤酒造店：0184-55-3010



●鳥海りんどう

鳥海りんどうは、夏季に冷涼な鳥海山麓の気象・立地条件をいかして県内一の産地となっています。鳥海山自生りんどうの品種であることや、濃厚な花色や品質が市場で高く評価されています。

また道の駅鳥海郷では期間限定でりんどうソフトクリームを販売しています。ジャージーソフトクリームにりんどうを練りこみ、りんどうをイメージした紫色で、見た目も味わいも爽やかなソフトクリームです。

●本荘ごてんまり

本荘ごてんまりは、手まりを起源とし、全国でここだけという、手まりの三方に房をつけた、美しさと技の粋ともいえる工芸品です。

その本荘ごてんまりの故郷である本市では、毎年10月下旬から11月上旬頃に「全国ごてんまりコンクール」が開催され、全国から多くのごてんまりや手まりが寄せられ、その美しさを競い合っています。



●刺し子

日本海に沿った地方を中心に、貴重な木綿を大切にしようと布地を補強し、さらには寒さに耐える保温力を増すために縫い目を入れたのが始まりで、一針一針丹念に布地に模様を刺し込みます。

昔から農家の野良着に活かされてきた手仕事が代々受け継がれ、今やその実用性と模様の巧みさ・美しさを両立させています。布の織り目をひろって均等に縫う過程で、麻の葉、紗綾形といったさまざまな模様が生まれました。

【お問い合わせ】由利本荘市観光協会：0184-24-6376



1. 鳥海山の四季

秀麗無比なる「鳥海山」
独立峰としては東北一の
標高2,236mを誇る

子吉川が市の中心部を縦貫し、豊
かな田園地帯(全国有数の米どころ)
を形成し日本海へ注ぐ

日本海の海の幸



海岸線から



紅葉の善神沼と鳥海山(10月)



紅葉の法体の滝(10月)



南由利原(由利地域):大谷地池から望む鳥海山
晴れた日には(無風)逆さ鳥海が望むことができる。



白銀の鳥海山(スノーモビルを楽しむことができる。)

2. 由利本荘の「花めぐり」



レンゲツツジが咲き誇る桑ノ木台湿原(6月)



ワタスゲに包まれた桑ノ木台湿原(6月)



鳥海高原菜の花まつり(5月) 矢島地域(桃野)



南由利原青少年旅行村



南由利原のコスモス:コスモスまつりも開催されます。



ひまわりまつり(8月)西目地域ハーブワールドAKITA



本荘さくらまつり(4月中旬~下旬) 本荘公園
本荘つつじまつり(5月中旬~下旬) 本荘公園
西目:さくら・菜の花まつり(4月中旬~5月上旬)
道の駅「にしめ」
東由利:黄桜まつり(5月上旬~下旬)
八塩いこの森



・由利:東由利原(ふれあい農場)(4月下旬~5月上旬)
※鳥海山を背景と秋田由利牛
・由利:西滝沢水辺プラザ(4月中旬~下旬)
・大内:葛岡のかすみ桜(5月上旬)
・西目:浜館公園(見頃4月下旬)

本荘地域



●赤田の大仏

日本三大長谷観音の一つに数えられる「長谷十一面観世音菩薩」のことであり、「赤田の大仏」と呼ばれ親しまれています。木製の金箔押しで造られていて、総丈は約9メートル。天明6年に造立され、明治21年に焼失し、8年後に再建され、昭和61年に本荘市有形文化財に指定されました。

●本荘公園

最上義光の重臣である本城豊前守満茂が築いた「本荘城」の城址公園。花の名所として親しまれ、春にはソメイヨシノが公園を桜色に染め、その後の5月上旬には色とりどりのツツジが咲き誇ります。園内には本荘の歴史と文化に触れる「修身館」、「本丸の館」があります。

【お問合わせ】 由利本荘市観光協会：0184-24-6376



●本荘マリーナ海水浴場

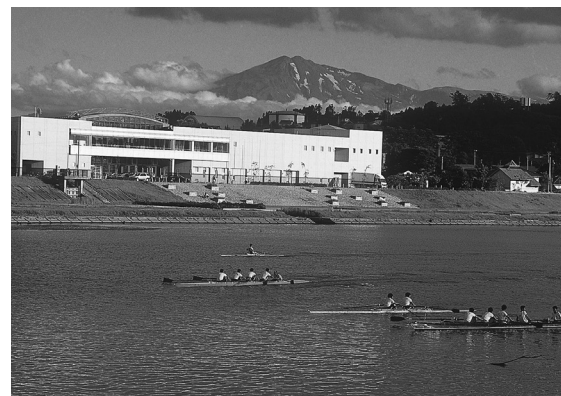
鳥海山を望める海水浴場で、海水浴シーズンには県内外から多くの観光客が訪れます。数多くのヨットが波間に浮かぶ光景が見られます。オートキャンプ場も隣接しているため、レジャーに最適な観光スポット。



●ボートプラザアクアパル

子吉川に人々がより親しめるよう作られた複合施設。子吉川の自然や歴史を学習できる「水と川のミュージアム」や、ボートガレージ、会員制のフィットネスジムなどがあります。市民ボート大会、子吉川いかだ下り大会などが開催され、水辺スポーツの拠点となっています。

【お問合わせ】 ボートプラザアクアパル：0184-22-5611



矢島地域



●竜ヶ原湿原（鳥海山矢島口「祓川」）

鳥海山の登山ルート・矢島口の車道終点。五合目祓川にある高層湿原。五合目には、祓川ヒュッテやキャンプ場、展望台などがあり、湿原はヒュッテのすぐ前。珍しい植物も含め、多くの高山植物が見られ、鳥海山の写真スポットとして人気があります。

●花立牧場公園

鳥海山と白樺と湖沼の景観が美しい高原。「星のきれいな町」全国第2位に選ばれ、降り注ぐような星空を望めます。パークゴルフ場やゴーカート場、ジャージー牛牧場があり、「花立牧場工房ミルジー」では新鮮なジャージー牛乳を直売するほか、搾乳体験などの体験メニューがあり、親子で楽しめる施設となっています。

【お問合わせ】 花立牧場工房ミルジー：0184-55-2605



●龍源寺

矢島藩主生駒氏の菩提寺。本堂は明治13年(1880年)に建立。桁行24m、梁間16mの大規模な木造寺院建築。雄大な茅葺屋根の重厚な佇まいが、周囲の杉木立によく溶け込んでいます。国登録有形文化財。

●土田家住宅

江戸時代前期、17世紀後半に建てられた村役層の上層農家建築。現存する民家では東日本最古。手斧(ておの)仕上げの栗材の太い柱が一間ごとにたち、その柱数の多さで屋根を支える古い時代の工法をよく伝えています。国指定有形文化財。



【お問合わせ】 矢島総合支所産業課：0184-55-4953

岩城地域



●天鷲村

亀田藩主岩城氏二万石の歴史を物語る史跡の里。天鷲村内には武家住宅や農家などの建造物が移築され、亀田藩の様子がうかがえます。



●龍門寺

寛永5年(1628)に建立された、亀田藩主岩城氏の菩提寺。厳格な雰囲気が漂う境内の「岩城家墓所」には歴代藩主が祀られています。

●亀田城佐藤八十八美術館

亀田藩主の居館を旧亀田城下町の絵図、見取り図などの資料を参考にできるだけ史実に基づいて復元。城内は美術館として、故佐藤八十八氏(旧本荘市)が親子三代から寄贈された書、絵画、工芸品、陶磁器などの美術品を展示。



●妙慶寺

1629年の草創。戦国武将真田幸村の娘であり、亀田藩二代藩主宣隆(のぶたか)の夫人であった、顕性院「お田の方」が建立した寺。



●甲冑

顕性院「お田の方」着用の具足。戦国期の実用性を重んじた強固なつくりで、兜の鍬形(くわがた)には真田六文銭の家紋が付けられている。秋田県指定重要文化財に指定されています。

由利地域



●南由利原青少年旅行村

鳥海山を望む大谷地池を中心としたフィールド。大谷地池を巡るサイクリングロードでは、高原の空気と森の風を感じながらのさわやかなアウトドアライフが楽しめます。桜やコスモスなど四季折々の花が咲くほか、天体観察施設「コスモワールド」や冬のアウトドアを楽しむ「スノーモビルランド」などがあります。

●森子大物忌神社〈史跡鳥海山〉

鳥海山登拝道の滝沢口に建立された社殿。江戸・安政2年に薬師堂として再建されたもので、江戸時代の現存する建造物としては、秋田県側唯一。一ノ鳥居から社殿まで300段の急な石段が築かれているおり、境内は秋田杉に囲まれ昼でも薄暗く、修験の聖地としての雰囲気に満ちています。



●旧鮎川小学校 校舎

明治から大正時代の校舎形式を引き継いだ、昭和28、29年建築の木造校舎。平行にのびる校舎三棟と屋内運動場で構成され、秋田杉の木目を活かした床や壁など、調和のとれた美しさは格別。現存する木造校舎では秋田県最大級の規模。国登録有形文化財。

大内地域



●千体地蔵

今から約220年前に、由利の名僧・是山和尚(赤田の長谷寺の開祖)により建立された延命地蔵尊のまわりに、寄進された千体のお地蔵さまが並んでいます。古来より通行の難所だったこの地で、通行人の安全祈願と、イボとり地蔵として有名であり、多くの人々から信仰されています。

●カスミザクラ

霞桜としては、全国でも珍しく樹齢400年以上、目の高さの幹回りで約6メートルあり、霞桜では日本一と言われています。花盛りの頃、遠くから眺めると霞がかかったように美しく、昭和34年秋田県天然記念物に指定されました。花の時期には、カメラマンや観光客が連日訪れます。また、敷地内に「かすみ温泉」があり、温泉の浴室の窓からも桜が楽しめます。



●大小屋ファミリーランド

ロッジ、炊事場、ゴーカートなどがあり、家族や仲間キャンプなどを楽しむことができます。また、近くには放牧場が隣接し、眺望に恵まれ、森林浴にも効果的で、休息と憩いのひとときに最適な環境を提供しています。

【お問い合わせ】
大内総合支所産業課:0184-65-2216
(株)大内町交流センター(ぼぼろっこ):0184-62-1126

東由利地域



●八塩いこいの森

八塩山麓や八塩ダムとともに、黄桜の名所として定着。ダムを一周する遊歩道や吊り橋、オートキャンプ場、パークゴルフ場などが整備されています。また、近くの八塩山は、標高713mで見事なブナ原生林が広がり、春や秋には新緑や紅葉を眺めながらハイキングが楽しめます。八塩山中腹にはボツメキ湧水があり、美味しい名水として知られ、市内外から多くの人々が訪れます。

●伝統工芸品体験工房「やしお」

閉校となった「旧八塩小学校」の教室を活用した工房で、わらじや草履などのわら細工作りなどの製作体験ができます。また、教室内にはわら細工の指導者が製作した作品が展示されており、昔ながらの生活や習慣を感じられます。



●湯出野遺跡

東日本最大級の土壙遺跡で、縄文後期から晩期(紀元前3500年~2500年)のものと考えられます。範囲は東西100m南北200mと推定され、103基の土こう墓が発見されたことから、かつて大きな集落形成があったことが推測されます。県指定史跡。

【お問い合わせ】
東由利総合支所産業課:0184-69-2116
道の駅「東由利」:0184-69-2611

西目地域



●浜館公園

中世に由利地方を支配した由利仲八郎政春の館(たて)跡といわれるところで、小高い丘からは、南に鳥海山、北に男鹿半島を望むことができます。なだらかな丘陵におよそ3,000本のソメイヨシノが植えられている桜の名所でもあり、日本海の潮騒を聞きながらお花見が楽しめます。

●ハーブワールドAKITA

約2万平方メートルの広大なガーデンを有した観光農園。ハーブガーデンには、約250種ものハーブが咲きほこるほか、秋にはブドウを収穫することができます。また、施設内では、クラフトや石鹸作りなどの体験メニューがあります。



●西目海水浴場

遠浅の海水浴場。きれいな海は人々に評判がよく、多くの人が西目の海で夏の海水浴を楽しんでいます。付近の西目海岸は「白砂青松百選」にも選ばれており、マリンスポーツも盛ん。遠浅の海は特にボードセーリングに適しており、休日ともなると色とりどりのセールが開き、青い海とのコントラストを見せます。

【お問い合わせ】
西目総合支所産業課:0184-33-4615
ハーブワールドAKITA:0184-33-4150

鳥海地域



●法体の滝

秋田県の名勝及び天然記念物に指定され、「日本の滝百選」にも選ばれた流長100m、落差57mの大滝。鳥海山の雪解け水を集めながら、その山に向かい合って落ちる滝は、全国でも珍しいといわれています。法体の滝を間近に見られる法体園地は、新緑の春から紅葉の秋まで、キャンプやなべっこを楽しむ観光客で賑わいます。映画「釣りキチ三平」のロケ地としても有名です。

●玉田溪谷

法体園地駐車場から法体の滝上流まで約20分。法体の滝上流から片道45分の散策コースは、ブナ林の中に「おう穴」など変化に富んだ溪谷美が展開されます。



●猿倉温泉郷

鳥海山麓唯一の高温泉で、美肌作用が魅力の猿倉温泉郷。



●ホテル フォレスト鳥海

すべての客室から、鳥海山を展望できるリゾートホテル。天然温泉は、大浴場、露天風呂、家族風呂と旅の疲れを心地良く癒やしてくれます。



●休養宿泊施設 鳥海荘

鳥海山を眺めながらの露天風呂、圧注浴、寝湯、サウナなどが楽しめます。鳥海山の探勝の基地として、保養、長期滞在での湯治もおすすめ。

【お問い合わせ】鳥海利総合支所産業課:0184-57-2205
フォレスト鳥海:0184-58-2888
鳥海荘:0184-58-2065

1. 由利本荘市のイベント一覧

4月	本荘さくらまつり	城址公園でもある本荘公園の桜まつり
	桜・菜の花まつり	西目地域のソメイヨシノと菜の花の競演
	鳥海山矢島口山開き	鳥海山矢島口の安全祈願
5月	黄桜まつり	淡黄色の黄桜と濃いピンク色の八重桜のコントラストが美しい
	本荘つつじまつり	本荘公園の約1万本のいろとりどりのつつじが楽しめます。
	鳥海高原菜の花まつり	矢島桃野地区や南由利原で開催
6月	丁岳山開き	丁岳(ひのとだけ)の安全祈願と記念登山
	新緑まつり	特産の百宅そば早食い大会など各種イベント開催
	西目漁港まつり	稚魚放流体験・海や漁港にちなんだクイズ・魚つかみ取り・抽選会など漁港ならではのイベント
7月	旧藩祭	市無形文化財の亀田大神楽や手踊りが町内を練り歩き、旧亀田藩の時代を偲ばせるまつり
	子吉川フェア	一級河川の清らかな子吉川を舞台に、親子船上観察、カヌー体験、魚のつかみ取り大会などのイベント
	日本海洋上火花大会	夏の夜空と日本海を華麗に彩る光と音の競演
	折渡地蔵尊宵宮・例大祭	23日に宵宮、24日が例祭。出店などが繰り出し、多くの参拝客でにぎわう
	やしま夏まつり	Mt.鳥海バイシクルクラシックの前夜祭として行われます。
	Mt.鳥海バイシクルクラシック	日本4大ヒルクライムレース。標高差1,100mを駆け上がります。
8月	菖蒲カーニバル	浴衣や法被姿の参加者が、「菖蒲音頭」や「新本荘追分踊り」を踊ります。
	本荘川まつり花火大会	約6,000発の花火が夏の夜空を鮮やかに彩り、燈籠流しが清流子吉川の川面に美しい花を咲かせます。
	ひまわりまつり	2haの花畑に設置した「ひまわり大迷路」や「ひまわり無料摘み取り」など
	鳥海山矢島口遊登山	鳥海山矢島口五合目「祓川」ー鳥海山(七高山)山頂
	鳥海高原由利原まつり	秋田由利牛フェアや野外コンサート、高原花火大会
	屋敷番楽	本海番楽を習得した人々が五穀豊穰・悪疫退散を願ったのが始まりとされています。
	鳥海獅子祭り	約380年もの長い間、鳥海管内13の講中で伝承されている獅子舞番楽
	本荘追分全国大会	独特の節回しで、この地の風土を唄う「本荘追分」の全国大会
	赤田大仏祭り	神仏混淆の名残を留める全国でも珍しい祭礼として知られ、県無形民俗文化財に指定
	岩城ふれあい港まつり	道の駅周辺を会場として、漁船体験乗船、フリーマーケット、抽選会等を開催

9月	西目りんごまつり	生産者によるテント直売や、りんご重量当てクイズ、りんご皮むき競争などのイベント
	前郷日枝神社祭典	「大日神楽」や「獅子コ踊り」の奉納の他、袴を着用し、陣笠を付けて肅々と歩く行列の姿は、祭典の歴史の深さを物語っています。
	秋田馬子唄全国大会	馬にちなんだ地名が随所に見られる大内地域で、古くから親しまれてきた「秋田馬子唄」の全国大会
	八朔まつり	400年以上の歴史を持つ矢島神明社の祭典
	本荘八幡神社祭典	本荘地域歴代の藩主が崇拝したという本荘八幡神社の祭礼。県指定無形民俗文化財の日役町獅子踊りも奉納されます。
	鳥海高原南由利原コスモスまつり	彩り豊かに咲き誇るコスモスが見どころ。多彩なイベントも開催。
10月	鳥海高原花立秋まつり	鳥海高原花立牧場公園内を会場として、イベントや、地元特産品販売などを開催
	鳥海高原法体の滝紅葉まつり	法体園地を会場に、郷土芸能や歌謡ショーなどを開催
	由利本荘市民まつり	由利本荘米まつりを改名。農商工文化の祭典。
	全国ごてんまりコンクール	全国から力作が集まるごてんまりの祭典
	ハタハタまつり	道の駅「にしめ」イベント広場にて、ハタハタの直売、炭火焼き、塩汁鍋販売。
12月	矢島カップGSLスキー大会	県スキー連盟公認のスキー大会
	岩谷麓ワタワタ	約350年前から続く小正月行事
	新山神社裸まいり	若衆たちが、法螺貝を鳴らして山頂にある神社を目指し参道をかけあがります。
1月	本荘凧あげ大会	凧愛好者が一同に会して力作を競い合います。
	折渡初地蔵カンジキ詣	雪の中、カンジキをはいて千体の地蔵をお参りします。
	天鷲冬まつり	昔の屋台、ぜんまい織り・鍛冶・陶芸の体験コーナー
2月	やしま冬まつり・酒蔵開放	子供向けのイベント開催。矢島の2つの酒蔵開放も行います。
	雪ものがたり	子供向けイベント、出店の他、当日来場者に豪華賞品が当たる大抽選会も行われます。
	雪上野球W杯東由利大会	雪上で行われる特別ルール of 楽しい野球。
	由利本荘雪まつりin鳥海高原	スノーモービル試乗体験、雪のすべり台等、盛り沢山のイベント
	由利本荘ひな街道	本荘・矢島・岩城・大内の各地域の資料館や美術館での企画展示
	由利本荘ひな街道「町中ひなめぐり」	本荘・矢島・岩城・大内の各地域で、商店や家々で大切にしているおひなさまを展示
3月	雪山八塩登山	早春の八塩山登山
	長坂稲荷神社梵天まつり	先陣を争う梵天奉納合戦が見どころ

参照：平成26年度

由利本荘市観光振興計画策定委員名簿

羽 川 彦 禄	秋田県由利地域振興局 地域企画課長
佐 藤 公	由利本荘市観光協会 理事
渡 部 秋 美	由利本荘市観光協会 理事
小 濱 仁	由利本荘市観光協会 理事
齋 藤 久 一 郎	由利本荘市観光協会 物産部部長
吉 田 光 浩	由利本荘市商工会 事務局長
鈴 木 憲 一	秋田しんせい農協 信用共済部金融課長
小 野 学	東日本旅客鉄道株式会社秋田支社 羽後本荘駅 駅長
佐 藤 貴	羽後交通観光株式会社 本荘営業所長
山 影 秀 平	
春 田 啓 郎	由利高原鉄道株式会社 代表取締役社長
菅 原 陽	(株)JTB東北 法人営業秋田支店営業一課 営業担当課長
鈴 木 秀 雄	NPO法人 あきた菜の花ネットワーク
伊 藤 晃 智	大内町交流センター(ぽぽろっこ)支配人
佐 藤 稔	ホテル フォレストア鳥海支配人
阿 部 登 志 子	有識者
熊 坂 文 子	有識者
小 野 一 彦	由利本荘市副市長

アドバイザー

鈴 木 郁 夫 ホテルマネジメントインターナショナル株式会社

由利本荘市観光振興計画
平成27年3月

発行者 由利本荘市
〒015-8501 秋田県由利本荘市尾崎17番地
TEL：0184-24-6376(観光文化振興課)
編集 由利本荘市商工観光部 観光文化振興課